

安田倉庫グループ 2026年3月期 通期決算説明会資料

強くなる、ひとつになる

YASDA GROUP CHALLENGE 2027

2026年5月20日

安田倉庫株式会社 代表取締役社長 小川 一成

(東証プライム 証券コード：9324)

YASDA

Logistics, Progress, Borderless.

【東証プライム：9324】

01 2026年3月期 通期の実績

- 業績概要
- セグメント別業績
- 変動要因
- 物流事業 物流施設推移
- 物流事業 科目別収益
- 不動産事業 科目別収益
- 連結財政状態
- キャッシュ・フローの状況
- 設備投資・借入金

02 2027年3月期 通期の見通し

- 連結業績予想
- 連結業績予想(セグメント別)

03 中期経営計画の進捗

- 長期ビジョン2030
- 長期ビジョン2030に向けた中計の位置づけ
- 長期ビジョン2030における各事業の成長イメージ
- 中期経営計画の概要
- 中期経営計画の取り組み
 - ①物流事業の取り組み
グループ連携によるネットワーク拡充①～④
潜在するニーズを捉えた高品質・高付加価値物流の提供
効率化・合理化の推進
 - ②不動産事業の取り組み
保有不動産の維持管理・再開発を通じた価値向上
 - ③経営インフラの取り組み
サステナビリティ経営の推進
持続的な成長を可能にする資本政策と財務健全性維持、株主還元強化①～②

参考
資料

- 安田倉庫グループについて
- 業界環境統計

01

決算説明

2026年3月期 通期の実績

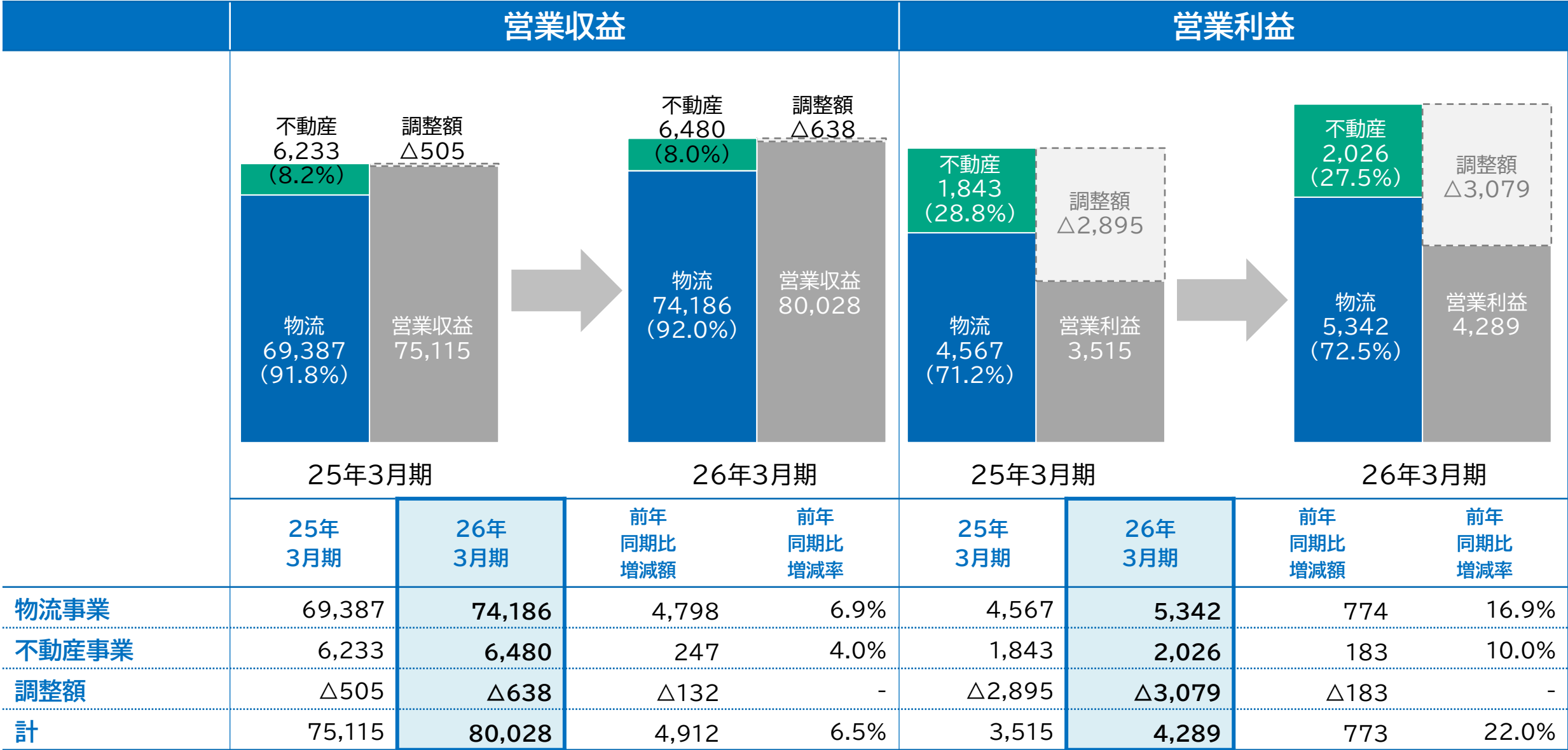
(単位:百万円)

	連結			前年同期比		対外公表予想対比	
	25年3月期	26年3月期	対外公表 業績予想 (2026年2月3日)	増減額	増減率	増減額	増減率
営業収益	75,115	80,028	80,000	4,912	6.5%	28	0.0%
営業利益	3,515	4,289	4,200	773	22.0%	89	2.1%
経常利益	4,977	5,822	5,600	845	17.0%	222	4.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,802	6,728	6,000	3,925	140.1%	728	12.1%
営業利益率	4.7%	5.4%	5.3%	0.7pt	-	0.1pt	-
1株当たり当期純利益(円)	96.76	232.33	207.13	135.57	140.1%	25.2	12.2%

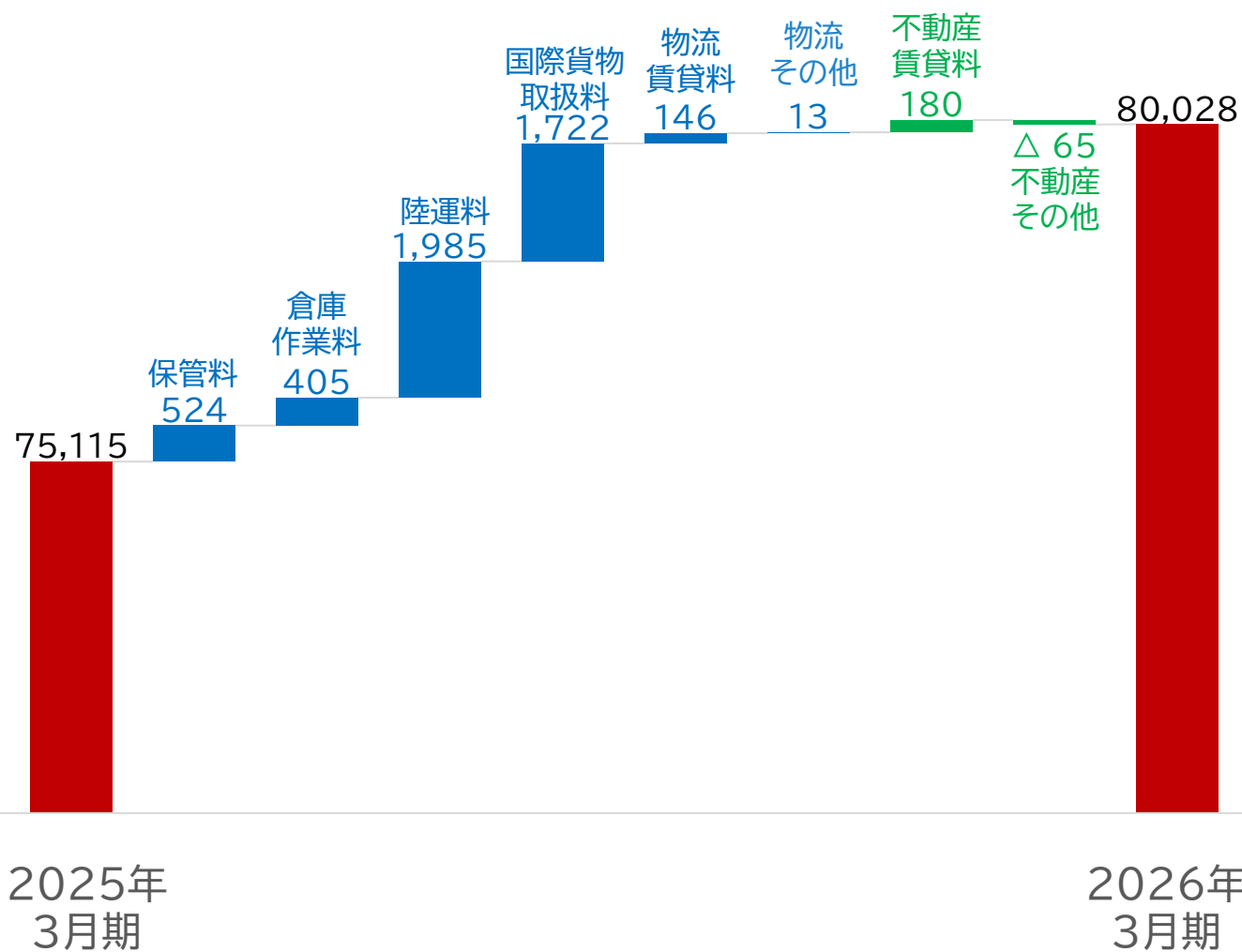
	25年3月期 末	26年3月期 末		増減額	増減率
総資産	210,320	234,046	-	23,726	11.3%
純資産(*)	105,435	119,658	-	14,223	13.5%
自己資本比率(*)	49.9%	50.9%	-	1.0pt	-
1株当たり純資産(円)(*)	3,625.30	4,128.50	-	503.20	13.9%

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

(単位:百万円)

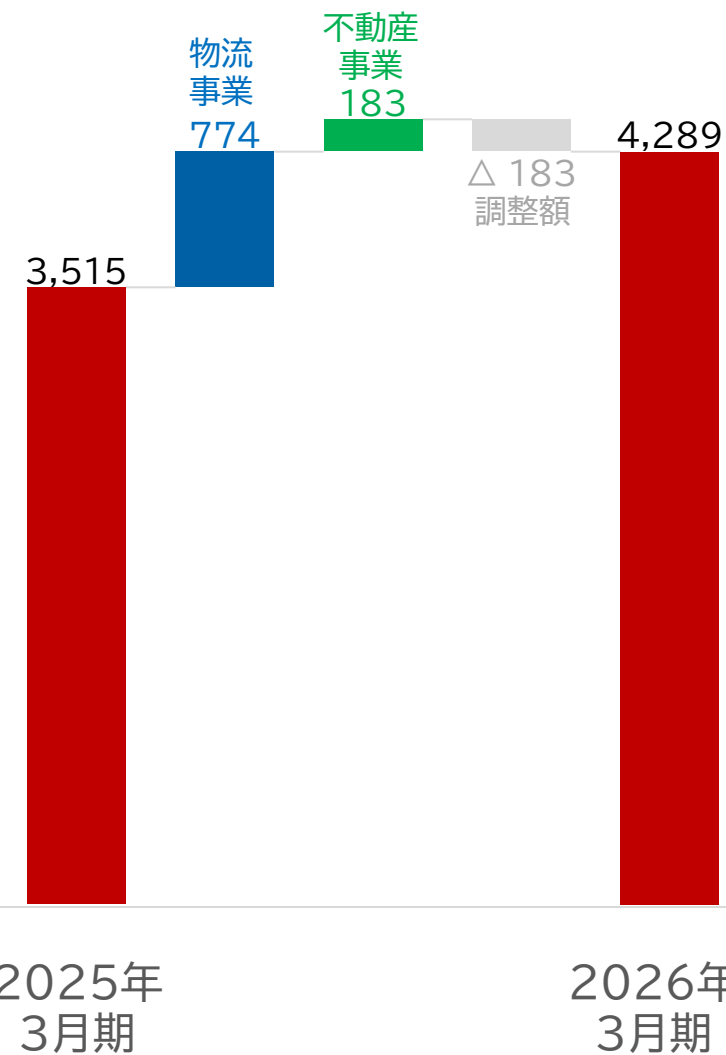


営業収益



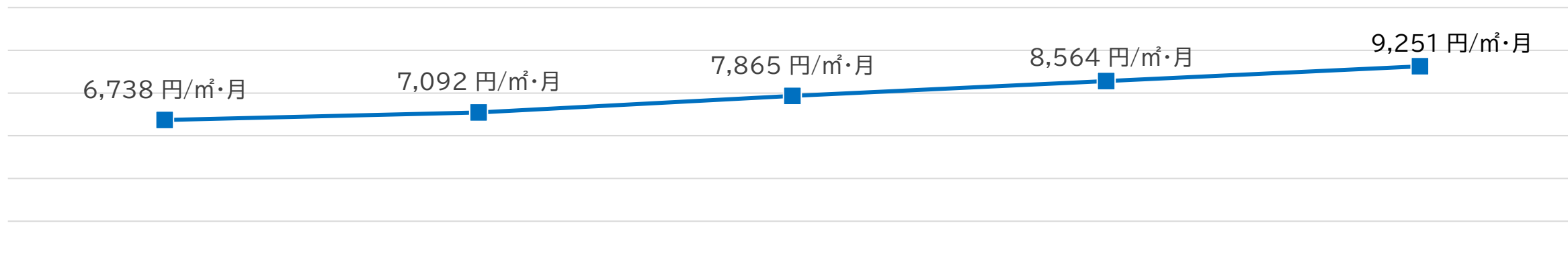
営業利益

(単位:百万円)



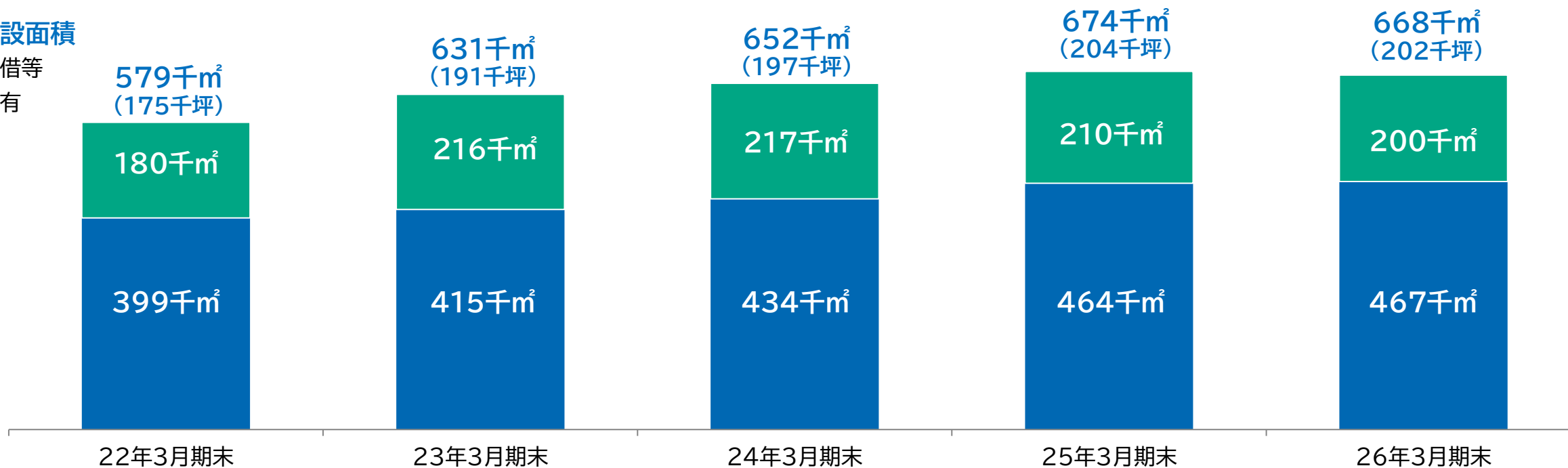
通期物流事業収益 ÷ 期末物流施設面積 ÷ 12カ月

1㎡あたり物流事業収益



物流施設面積

■ 賃借等
■ 所有



(単位:百万円)

科目	概況	25年 3月期	26年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
保管料	➢ 25年3月期に開設した加須営業所が本格稼働、グループ会社を含めたメディカル物流好調、既存物流施設も堅調に推移した結果、前期比増収	10,198	10,722	524	5.1%
倉庫作業料	➢ 25年3月期に開設した加須営業所が本格稼働し、メディカル物流の好調も相まって前期比増収	10,381	10,786	405	3.9%
陸運料	➢ グループ運送会社各社好調、25年3月期に開設した加須営業所が本格稼働、IT機器物流輸送案件・引越案件好調などにより、前期比増収	30,774	32,759	1,985	6.5%
国際貨物 取扱料	➢ 鋼材・食品輸送取扱好調、グループ会社取扱好調及びスポットAIR案件取扱などにより、前期比増収	9,375	11,098	1,722	18.4%
物流賃貸料	➢ 既存物流施設の稼働率堅調より前期比増収	2,173	2,319	146	6.7%
物流その他	➢ 物流付帯業務である原薬販売が前年並みで推移	6,467	6,481	13	0.2%

業界環境(物流)

倉庫(保管残高)

荷動き好調により在庫増加
保管残高 前年同期比+2.3%
※倉庫21社統計25年4月～25年11月

倉庫(入庫高・出庫高)

入庫荷動き増加、出庫荷動き減少
入庫高 前年同期比+0.3%
出庫高 前年同期比△1.9%
※倉庫21社統計25年4月～25年11月

国内輸送(貨物自動車・宅配)

輸送トン数減少も、宅配個数は増加
輸送(t) 前年同期比△ 1.3%
宅配個数 前年同期比+ 2.3%
※国交省統計25年4月～26年2月

輸出入(海上・航空)

海上:輸入・輸出ともに増加(京浜港)
輸入(TEU) 前年同期比+ 2.4%
輸出(TEU) 前年同期比+ 1.2%
※東京都・横浜市港湾統計25年4月～25年12月
航空:輸入・輸出ともに増加
輸入(t) 前年同期比+ 0.9%
輸出(t) 前年同期比+ 1.4%
※航空貨物運送協会統計25年4月～26年3月

(単位:百万円)

科目	概況	25年 3月期	26年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
不動産 賃貸料	➤ 東京地区・横浜地区共、市況を下回る低空室率を維持し、また再開発した横浜西口ビルも稼働し、前期比増収	4,508	4,689	180	4.0%
不動産 その他	➤ 低空室率を維持したことにより、入退去に伴う施工工事が減少し、前期比減収	1,236	1,170	△65	△5.3%

業界環境(不動産)

東京・横浜不動産動向

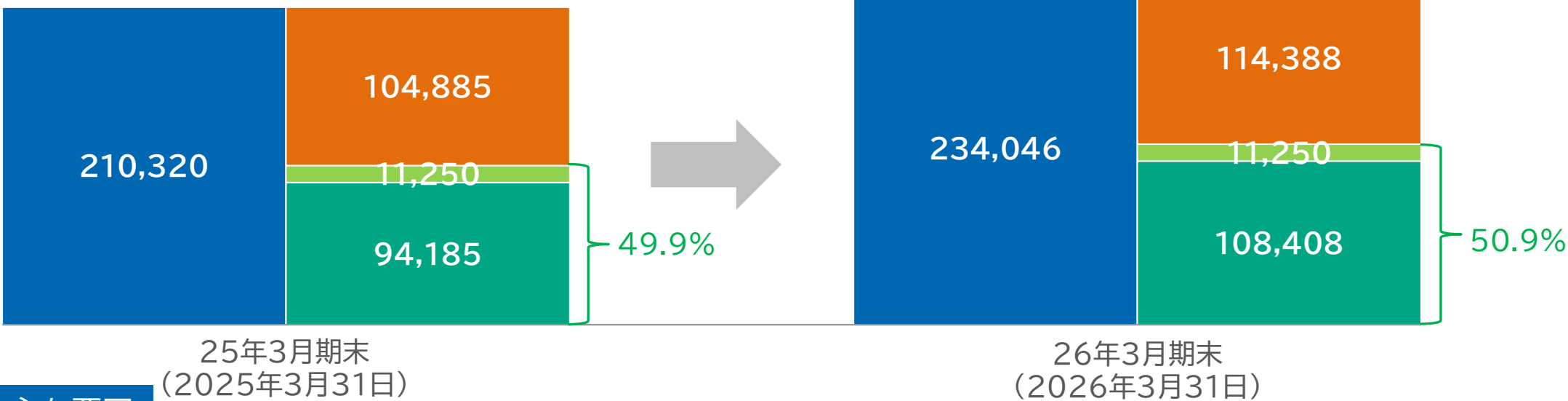
東京:空室解消・賃料増加
25年3月空室率3.9% 賃料¥20,641/坪
26年3月空室率2.2% 賃料¥22,302/坪
(△1.7pt) (+8.0%)

横浜:空室解消・賃料増加
25年3月空室率6.8% 賃料¥12,992/坪
26年3月空室率5.9% 賃料¥13,237/坪
(△0.9pt) (+1.9%)

※三鬼商事(株)市況・データ情報

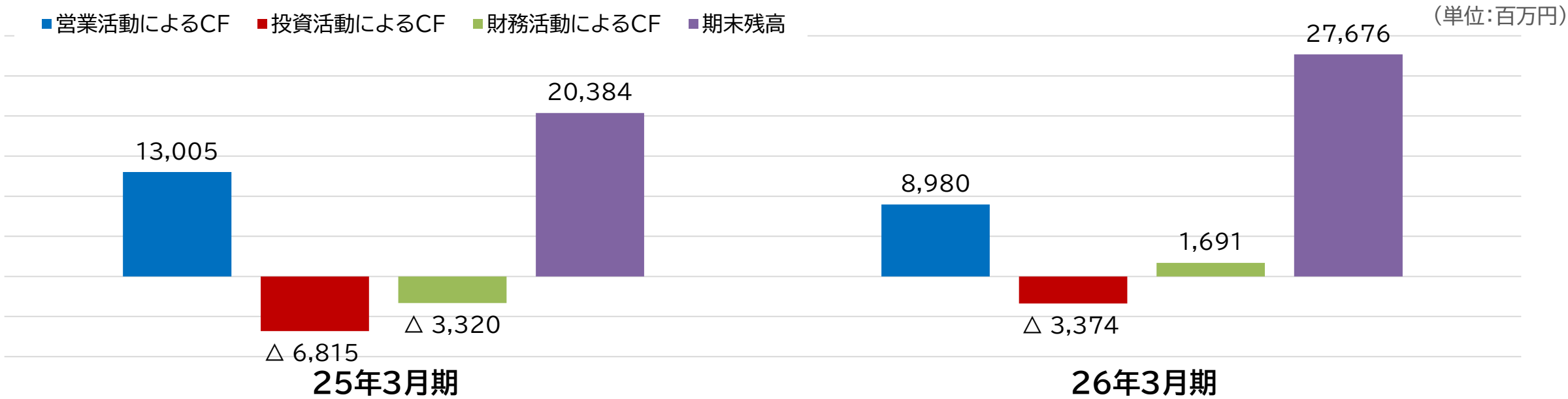
注：%表記は自己資本比率

(単位:百万円)



主な要因			
■ 総	資	産	投資有価証券
			現金及び預金
			受取手形及営業未収金
			商品
■ 負	債	債	繰延税金負債
			長期借入金
■ 純	資	産	みなし資本(*)
			其他有価証券評価差額金
			利益剰余金
			自己株式

(+12,789百万円)	(*)2022年2月実施のハイブリッドローン 150億円のうち、75%(112.5億円) をみなし資本として算出
(+ 7,250百万円)	
(+ 1,218百万円)	
(△ 1,235百万円)	
(+ 4,528百万円)	(*)2022年2月実施のハイブリッドローン 150億円のうち、75%(112.5億円) をみなし資本として算出
(+ 3,823百万円)	
(± 0百万円)	
(+ 8,919百万円)	
(+ 5,302百万円)	
(△ 217百万円)	



	25年3月期	26年3月期	前期比	主な要因
営業活動によるCF	13,005	8,980	△4,025	税金等調整前当期純利益や減価償却費の資金留保など
投資活動によるCF	△6,815	△3,374	+3,441	固定資産の取得による支出など
財務活動によるCF	△3,320	1,691	+ 5,012	借入金の調達など
期末残高	20,384	27,676	+ 7,292	

(単位:百万円)

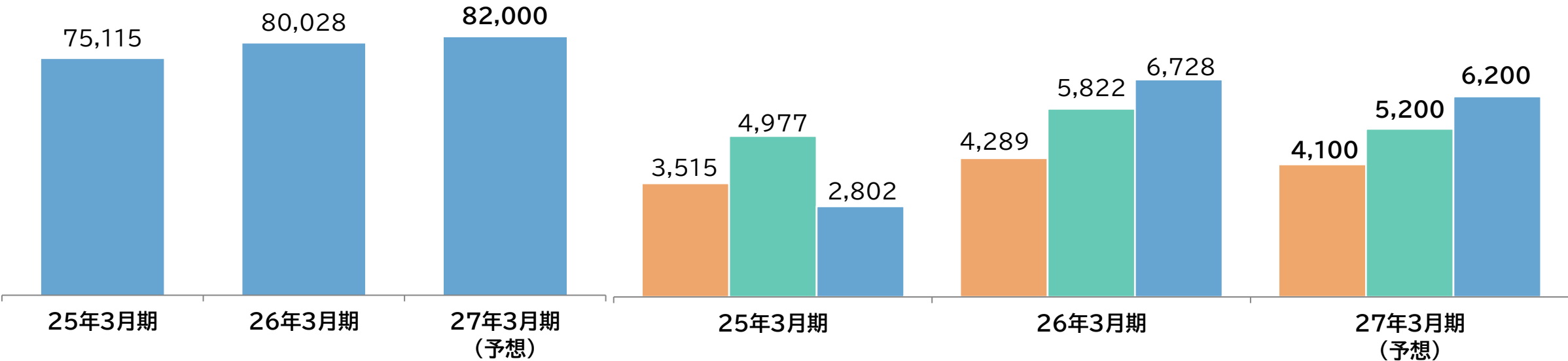
	25年3月期	26年3月期	27年3月期 (計画)
設備投資額	6,043	8,257	8,192
主な投資案件	<u>26年3月期</u> <ul style="list-style-type: none">・北海安田倉庫 倉庫物件の取得・羽田営業所 建設・吉川営業所 大規模リニューアル・オリエント・サービス 春日井危険物倉庫建設・グループ各社 車両購入・DX、システムへの投資 など		<u>27年3月期</u> <ul style="list-style-type: none">・羽田営業所 開設に向けた設備投資・安田8号ビル リニューアル工事・インドネシア 新倉庫 建設・グループ各社 フォークリフト、トラック購入・DX、システムへの投資 など
減価償却費	4,807	4,969	5,359
期末借入金残高 及び社債発行残高	74,962	78,636	74,000

02

決算説明

2027年3月期 通期の見通し

(単位:百万円)



前期比		
	増減額	増減率
■ 営業収益	1,971	2.5%

前期比		
	増減額	増減率
■ 営業利益	△189	△4.4%
■ 経常利益	△622	△10.7%
■ 親会社株主に帰属する純利益	△528	△7.9%

➤ 営業収益は、前期リニューアルした吉川営業所の本格稼働に加え、今期開設する羽田営業所およびリニューアル稼働する安田8号ビル(芝浦)の収益寄与、メディカル物流の事業拡大、ならびに国内・海外の輸配送ネットワーク拡充による収益力強化を背景に、17年連続の増収を見込む。一方、物流施設の拡充や経営インフラ強化に伴う費用等の増加により利益面では減益を見込む。

(単位:百万円)

	営業収益				営業利益			
	<div><div><div>不動産 6,480 (8.0%)</div><div>調整額 △638</div></div><div>物流 74,186 (92.0%)</div><div>営業収益 80,028</div></div> <div>26年3月期</div> <div></div> <div><div><div>不動産 6,500 (7.9%)</div><div>調整額 △500</div></div><div>物流 76,000 (92.1%)</div><div>営業収益 82,000</div></div> <div>27年3月期(予想)</div>				<div><div><div>不動産 2,026 (27.5%)</div><div>調整額 △3,079</div></div><div>物流 5,342 (72.5%)</div><div>営業利益 4,289</div></div> <div>26年3月期</div> <div></div> <div><div><div>不動産 2,100 (27.6%)</div><div>調整額 △3,500</div></div><div>物流 5,500 (72.4%)</div><div>営業利益 4,100</div></div> <div>27年3月期(予想)</div>			
	26年 3月期	27年 3月期 予想	増減額	増減率	26年 3月期	27年 3月期 予想	増減額	増減率
物流事業	74,186	76,000	1,813	2.4%	5,342	5,500	157	3.0%
不動産事業	6,480	6,500	19	0.3%	2,026	2,100	73	3.7%
調整額	△638	△ 500	138	-	△3,079	△ 3,500	△420	-
計	80,028	82,000	1,971	2.5%	4,289	4,100	△189	△4.4%

03

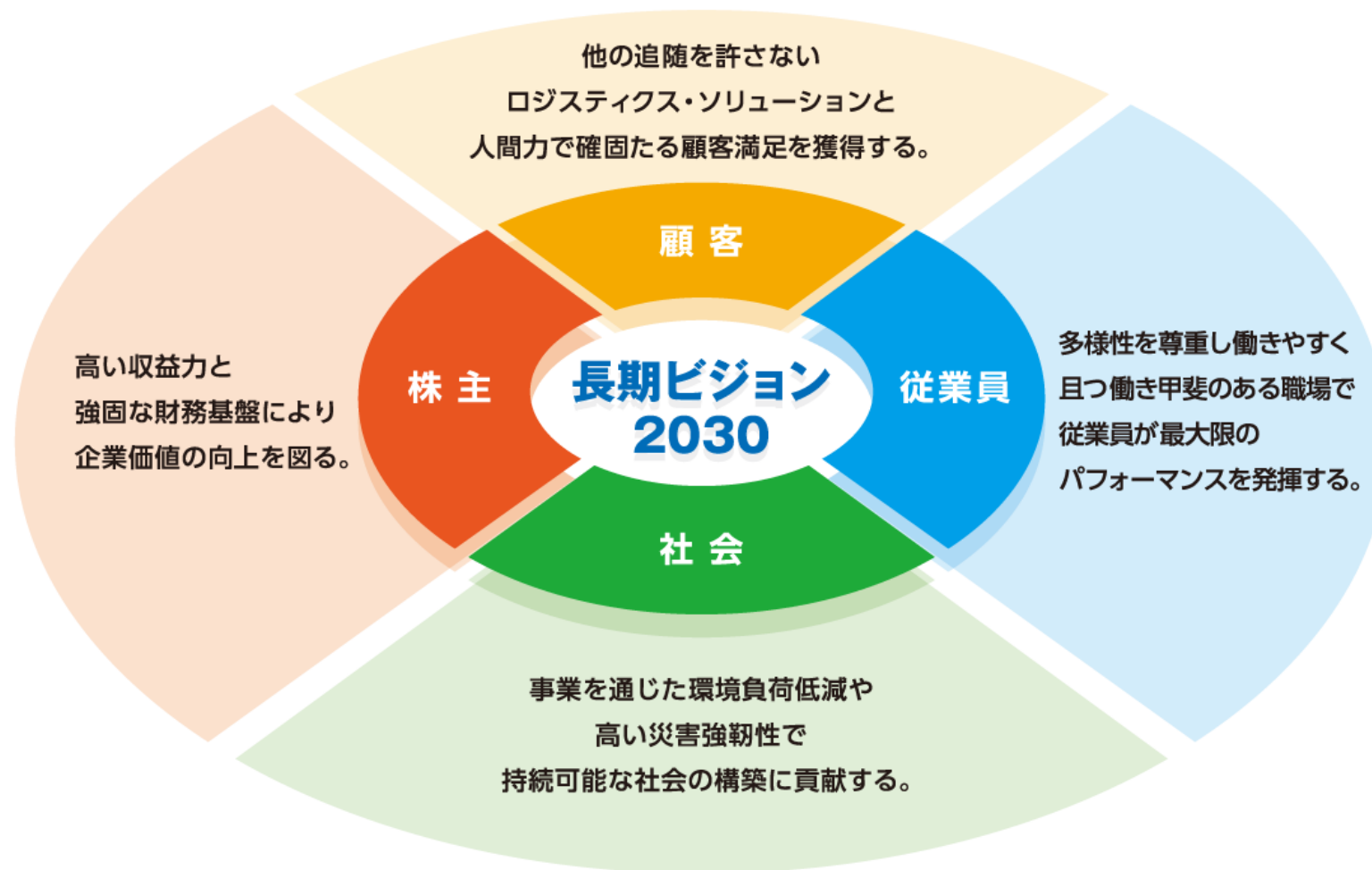
中期経営計画の進捗

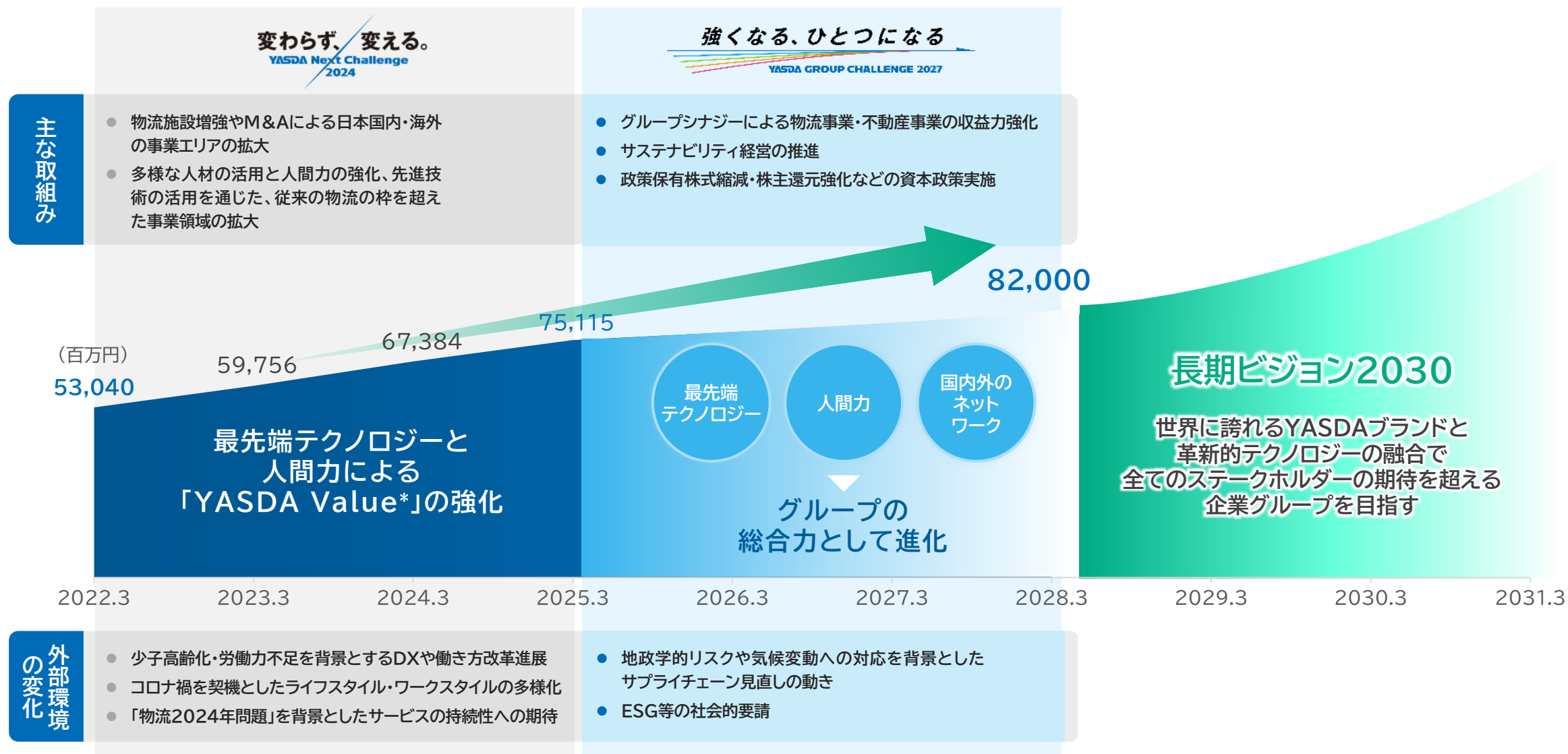
「長期ビジョン2030」および中期経営計画

強くなる、ひとつになる

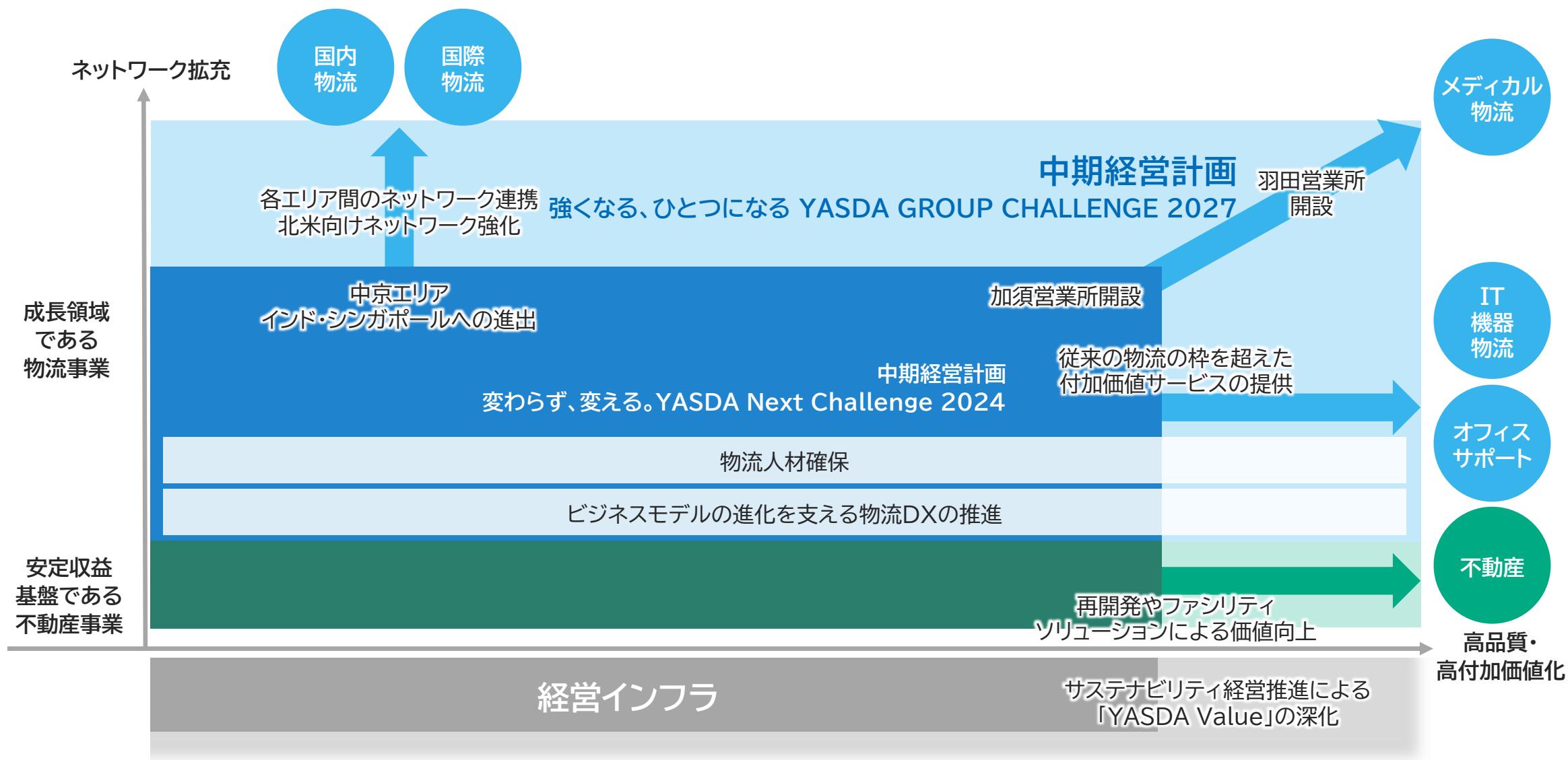
YASUDA GROUP CHALLENGE 2027

世界に誇れるYASDAブランドと革新的テクノロジーの融合で
全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指す





*YASDA Value: お客様の声に真摯に耳を傾け誠実にお応えする安田倉庫グループで共有する価値



強くなる、ひとつになる

YASDA GROUP CHALLENGE 2027

基本方針

最先端テクノロジーと多様な人間力、そして国内外に広がるネットワーク。
安田倉庫グループの総合力を進化させ、
社会とお客様の期待を超える「YASDA Value」の提供を目指す。

基本戦略

物流事業

- グループ連携によるネットワーク拡充
- 潜在するニーズを捉えた高品質・高付加価値物流の提供
- 効率化・合理化の推進

不動産事業

- 保有不動産の維持管理・再開発を通じた価値向上
- 専門性を活かした不動産ソリューションの提供

経営インフラ

- 生産性向上
- サステナビリティ経営の推進
- グループガバナンス強化
- 持続的な成長を可能にする資本政策と財務健全性維持、株主還元強化

数値目標

2028年
3月期連結

営業
収益

820億円

営業
利益

45億円

ROE

5.5%以上

03

中期経営計画の進捗 物流事業の取り組み

強くなる、ひとつになる

YASUDA GROUP CHALLENGE 2027

物流施設の新設・リニューアルおよび取得を通じて、収益力の強化を推進

▽ 吉川営業所 リニューアル工事完了



2025年9月完了

▽ 吉川営業所 危険物倉庫建設



▽ 羽田営業所 建設工事進行



2026年5月竣工予定

▽ 北海安田倉庫 倉庫物件の取得



2025年8月完了

▽ オリент・サービス 危険物倉庫建設工事



2026年3月竣工

▽ インドネシア 倉庫建設準備



2026年7月着工予定

着実な国内物流網の拡大

法令改正に適用した輸配送サービスの安定供給へ

YASUDA

安田倉庫グループ

PMIを強化し
更なる連携強化を

大西運輸



主なエリア 北陸
車両台数 292台

DC型営業倉庫
への本格参入を目指す

安田運輸



主なエリア
首都圏・関西・中京・
九州・東北
車両台数 112台

グループ連携により医薬品・
IT機器などの高品質な
輸配送ネットワークを拡大

YSO Logi



主なエリア
関西・首都圏・九州
車両台数 72台

京都の営業倉庫と各エリアの
運送ネットワークを活用し
グループ連携を更に深める

南信貨物自動車 パワード・エル・コム分含む



主なエリア
甲信・首都圏・中京
車両台数 319台

※パワード・エル・コム分含む

佐久地域での
ハブ配送拠点新設を目指す

オリエント・サービス



主なエリア 中京
車両台数 178台



2026年5月愛知県春日井市で
新たな危険物倉庫の稼働開始

グループ拠点のある都道府県

さらなる国内輸送網の拡充

新たなグループ会社との連携開始へ

○帝人物流株式会社(大阪府大阪市)

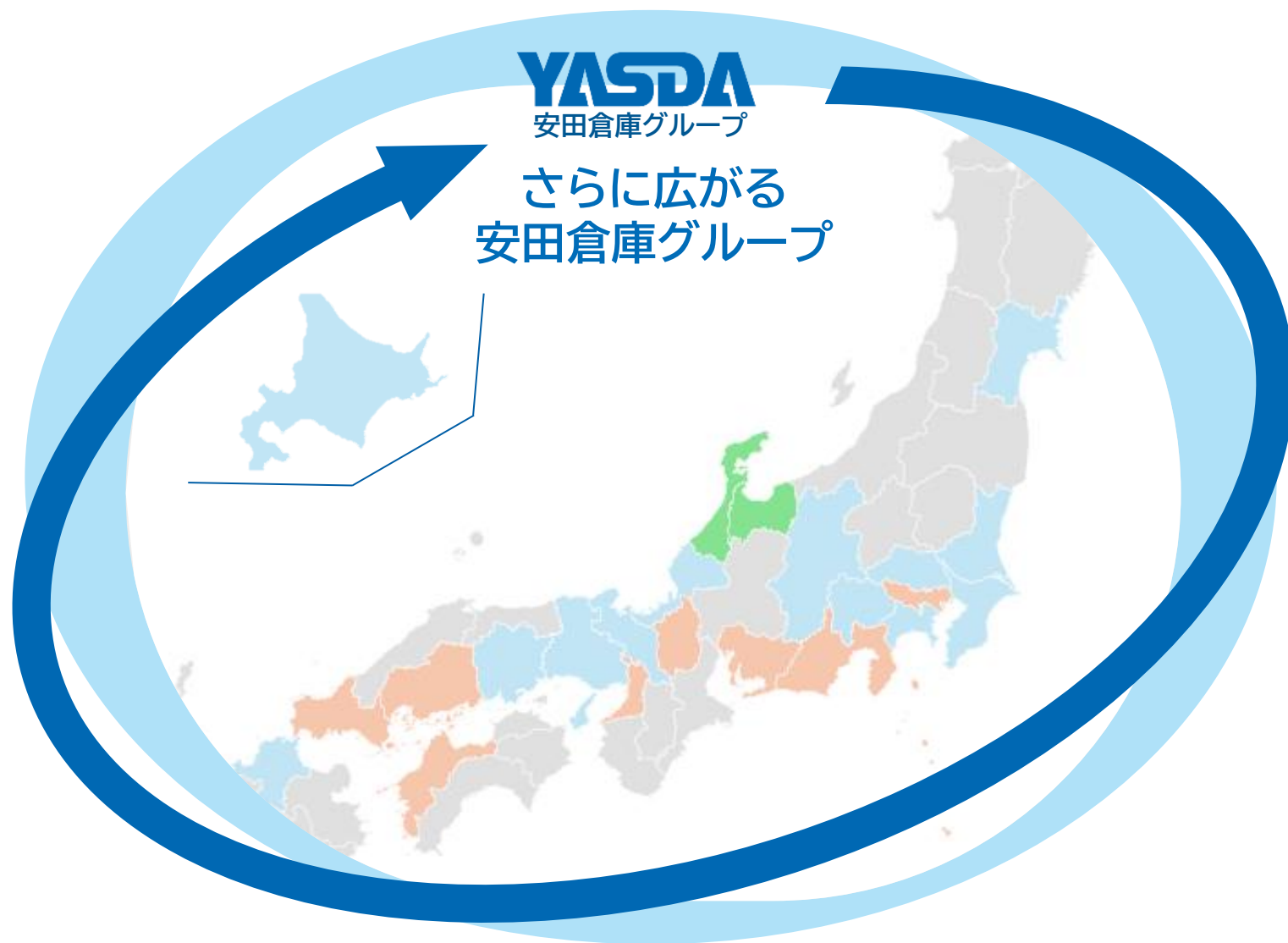
- 2025年11月14日 全株式取得を発表
- 2026年 4月10日 一部株式(20%)を取得

※全株式の取得時期は調整中

西日本を中心としたネットワークの拡充などを目的に、両社の物流ノウハウなどを融合することで、安定した総合物流サービスの実現を目指す

○富山県トラック株式会社(富山県富山市)

- 2026年4月21日 新たにグループ会社化
- 既存グループ会社の大西運輸株式会社(石川県金沢市)とのコラボレーションなど、北陸地方でのネットワーク拡充と物流サービスの更なる拡充を図る



帝人物流株式会社の拠点がある都道府県



富山県トラック株式会社の拠点がある都道府県



既存グループ会社の拠点がある都道府県

※東京都、大阪府、滋賀県、愛知県、石川県、富山県については、既存グループ会社の拠点もございます。

国際情勢に対するリスク分散や、インド・東南アジア地域の経済成長の取り込みを図る日系企業のニーズに応えるべく、アジア・太平洋地域における安田倉庫グループのネットワークの拡大や連携強化を進める

● 安田倉庫の国際物流網

強み

各国の成長を見越した先行投資による
充実したアジア地域の輸出入拠点



・インド市場拡大へ各種セミナーへの登壇



・中国-欧州鉄道サービス開始



● インドネシア倉庫建設準備



2026年7月着工予定

・マーケティング強化の取り組み



メルマガ配信

【お知らせ】安田中倉、WeChat
公式アカウント開設！最新の物流
事情をお届け！

安田中倉国際物流 2026年1月5日 11:43



Wechatアカウント開設

・PR動画作成



リスティング広告

● 医薬品物流

医薬品物流における強み



- GDP(医薬品の適正流通基準)にとどまらず、医薬品製造業許可に基づくGMP(医薬品の製造管理・品質管理基準)領域における事業領域拡大を目指す
- B to Bに加え、新たに B to C 領域への医薬品 E C 物流サービスを開始

西日本地域での医薬品物流拠点新設を検討

2社の強みを融合し
東西2拠点化によるBCP対応強化を図る



2拠点で医薬品製造業(包装・表示・保管)の許可を新たに取得



医薬品製造業 新規取得拠点①
安田倉庫
茨木営業所(大阪府茨木市)



医薬品製造業 新規取得拠点②
安田ロジファーマ
北房センター(岡山県真庭市)

● 医療機器物流

医療機器物流における強み

大消費地である首都圏での充実したネットワーク

京浜港・羽田空港に至近で国内外への輸送が容易

- 東雲・辰巳拠点で展開する医療機器修理業許可に基づく「医療機器総合ワンストップサービス」を新設予定の羽田営業所で提供を目指す
- 医療機器洗浄業務を首都圏から北海道、九州拠点へと展開する



● 新拠点 羽田営業所 (2026年5月竣工予定)

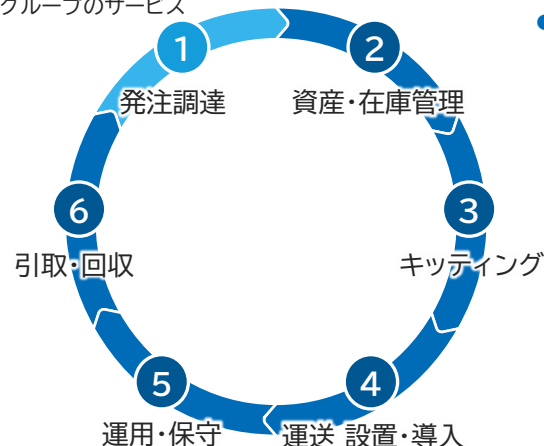


- 東京都大田区昭和島
- 空調設備による温度管理対応(冷蔵(2℃~8℃)、マイナス温度帯等)
- 非常用発電機設置によるBCP対応
- 洗浄・メンテナンス・修理への対応
- 輸出入・国内配送に最適な立地(羽田空港まで約10分、成田空港まで約50分、東京港まで約10分)

従来の物流の枠を超えた高品質・高付加価値なサービス提供を強化し、事業領域を拡大

IT機器物流

■ お客様側での対応
■ 当社グループのサービス



- IT機器のライフサイクルにかかる一連の業務を一貫してお引き受けする「IT機器ライフサイクルマネジメント」の事業拡大を、リース会社などとの連携によりさらなる加速を図る

▼ キitting作業



新テクニカルセンターにおけるIT機器物流サービスの提供

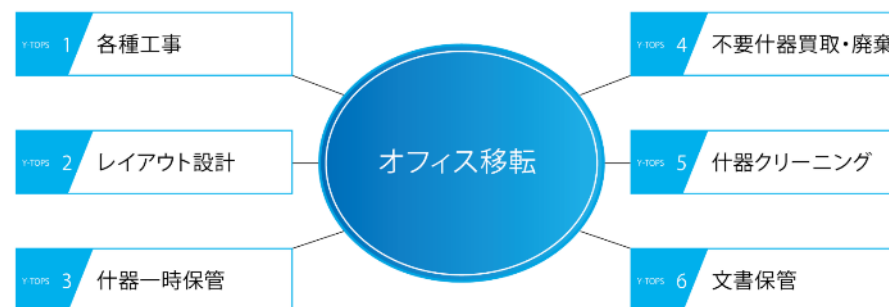
- 横河レンタ・リース株式会社および芙蓉総合リース株式会社が神奈川県海老名市に開設する新たなテクニカルセンターで、構内および外部の物流サービスを提供する
- 当社が長年培ってきた高品質な物流オペレーションとIT機器のライフ・サイクル・マネジメントサービスのノウハウを活かし、3社が連携してお客様のIT資産管理における課題解決をワンストップで提供する



「三井不動産インダストリアルパーク 海老名 & forest」完成予想図

オフィスサポート

- オフィス移転サービスやオフィス文書保管サービスを統合したY-TOPS（安田倉庫のトータルオフィスプランニングソリューション）として事業転換を図っている



- ▼ グループ連携にて、付加価値を高めたオフィス移転サービス受託に向け営業活動中



安田倉庫の文書情報管理サービス



文書の保管から活用・破棄までワンストップでご対応いたします！

物流事業全般 ▶▶▶ 当社グループが提供する高品質・高付加価値物流の持続的かつ安定的な提供に向け、物流事業従事者や専門人材の確保・育成を実施

AI・ロボット技術などの物流DXを活用した効率化・合理化の推進

▽ ロボット技術を活用した物流DXの推進

● 大黒流通センターでのPA-AMR導入



● 九州営業所でのAMR導入

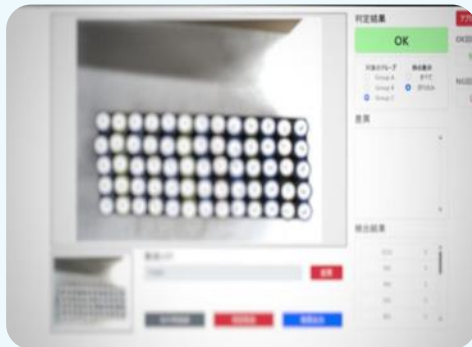


▽ ITキitting作業自動化ツールの導入



▽ AIを活用した業務効率化の推進

● 医療機器物流におけるAI画像検品ソリューション



● 生成AI活用による業務変革



▽ 経済産業省が定める「DX認定制度」の認定更新



03

中期経営計画の進捗

不動産事業の取り組み

強くなる、ひとつになる

YASUDA GROUP CHALLENGE 2027

保有不動産の適切なメンテナンスや、東京芝浦地区、横浜鶴屋町地区の再開発推進により
資産価値をさらに向上させ、当社グループの安定的な収益基盤である不動産事業の強化・拡大を図る

● 東京芝浦地区



安田8号ビル(旧本社)
大規模リニューアルに着手



2026年6月完了予定

- 不動産事業施設
- リニューアル・再開発予定
- 物流事業拠点

● 横浜鶴屋町地区



第8安田ビル(2024年12月竣工)
クリニック・レジデンス複合施設
として高稼働化

- 不動産事業施設
- 再開発予定

03

中期経営計画の進捗













経営インフラの取り組み

強くなる、ひとつになる

YASUDA GROUP CHALLENGE 2027

非財務目標の策定

▽ 非財務目標の策定 ● 非財務目標

マテリアリティ	関連するSDGs	非財務目標	種別	2025年度 実績 (*1)	2027年度 目標	2030年度 目標
高品質で安全なサービスの提供 による最適な社会環境の創造	  	業務改善報告書提出件数	●	1,403件	1,300件	1,500件
		生成AI利用者率 ^(※2)	●	21%	20%	50%
低炭素・循環型社会への貢献	  	CO ₂ 排出量削減率(Scope1+2) ^(※3)	●	11%	19%	30%
		再生可能エネルギー発電量	●	1,555MWh	3,700MWh	5,000MWh
多様な人材がゆとりと豊かさを 体現できる職場の実現	   	女性管理職比率	●	15.0%	20%	25%
		年次有給休暇の取得率	●	67.2%	75%	75%
		男性の育児休業取得率	●	50.0%	75%	100%
		従業員1人当たりの研修受講回数	●	4.1回	4.5回	5.0回
企業の社会的責任を深く認識した経営の実践	 	安田倉庫グループ全体でコーポレート・ガバナンス高度化、各種リスク(コンプライアンス、情報セキュリティ、災害など)へのマネジメント強化に取り組む				

●・・・グループ目標 ●・・・安田倉庫単体目標

(※1) 2025年度実績は速報値であり、今後変更となる可能性があります。

(※2) 営業日において、1日1回以上利用した生成AI利用者を「1人日」とカウントし、年間の延べ利用者数(人日)を年間の延べ従業員数(人日)で割り込んだ比率

(※3) 2022年度を基準としたCO₂排出量削減率

品質への取り組み

- ▽ 全員参加型の改善で YASDA Valueを深化
- 自発的な改善提案(業務改善報告書)の提出件数が過去最多の1,400件超(グループ全組織、全従業員対象)

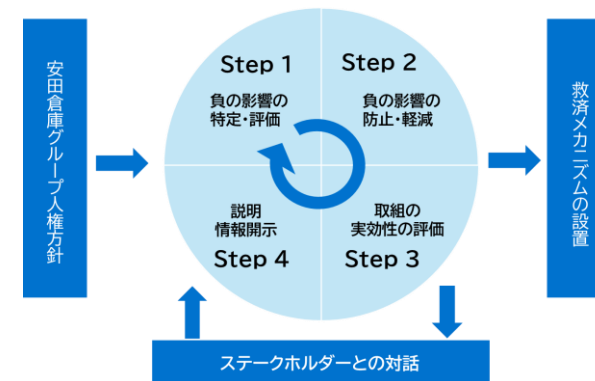
気候変動への取り組み

- ▽ 再生可能エネルギーの創出・活用による脱炭素化推進
- 柏営業所、守屋町営業所にオフサイトPPA導入を決定
- 年間2,460MWhの再生可能エネルギーを創出予定

オフサイトPPA:遠隔地の発電設備から一般の送配電網を介して、再生可能エネルギー電力を調達する電力購入契約

人権への取り組み

- ▽ 安田倉庫グループ人権方針に掲げる、人権デュー・ディリジェンスの実施に向け仕組み構築に着手



強くなる、ひとつになる

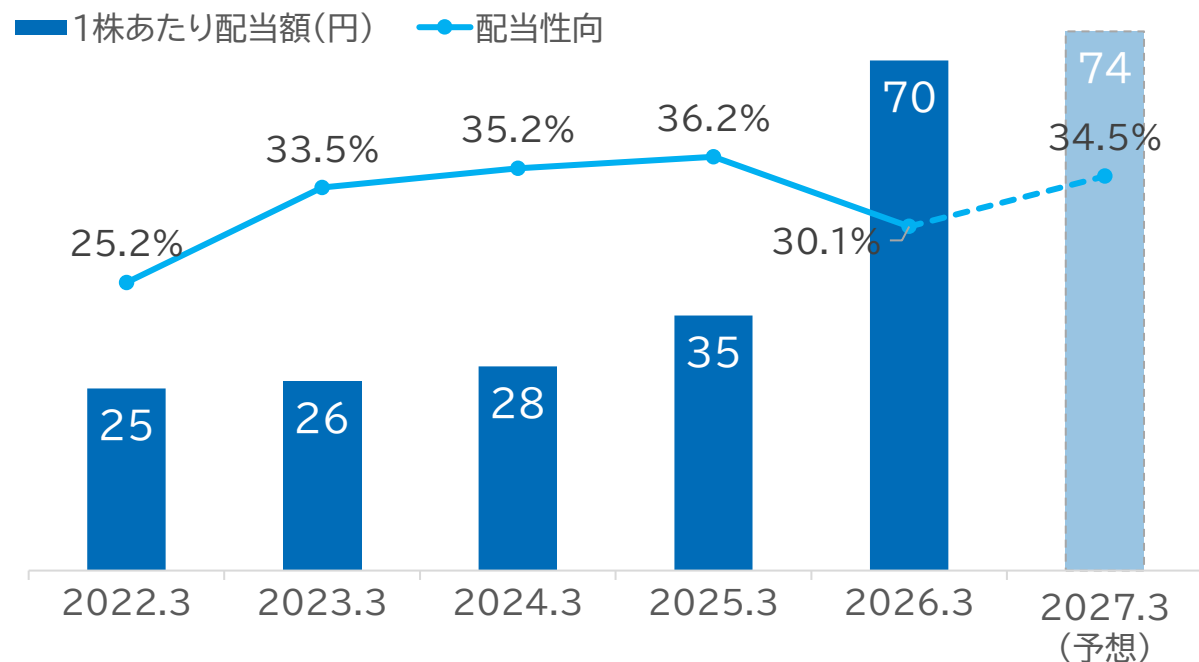
YASUDA GROUP CHALLENGE 2027

総還元性向45%を目安

累進配当かつ
連結配当性向30%下限

機動的な自己株式
取得を検討

2026年3月期 中間配当:29円 期末配当:41円 通期:70円



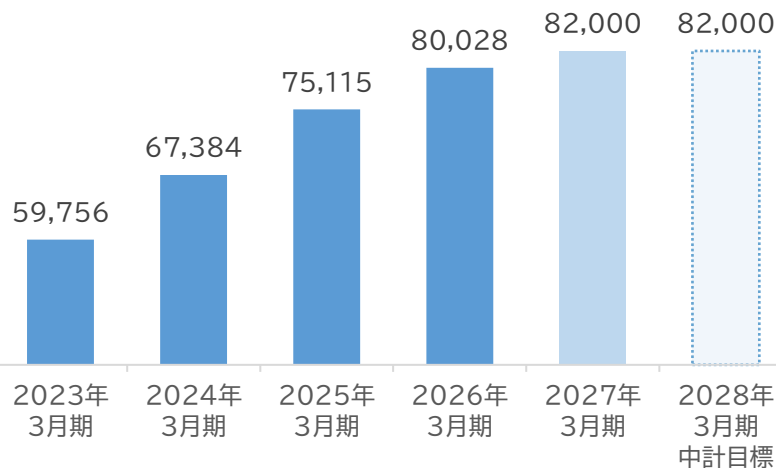
自己株式の取得

- 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- 取得し得る株式の総数 : 550,000 株(上限)
※発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.90%
- 株式の取得価額の総額 : 1,000,000,000 円(上限)
- 取得期間 : 2026年3月4日～2027年2月26日
- 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付け
※ 2026年2月16日開示情報
- 2026年3月31日時点の途中経過
取得した株式の総数 : 92,500 株
株式の取得価額の総額 : 222,351,000 円

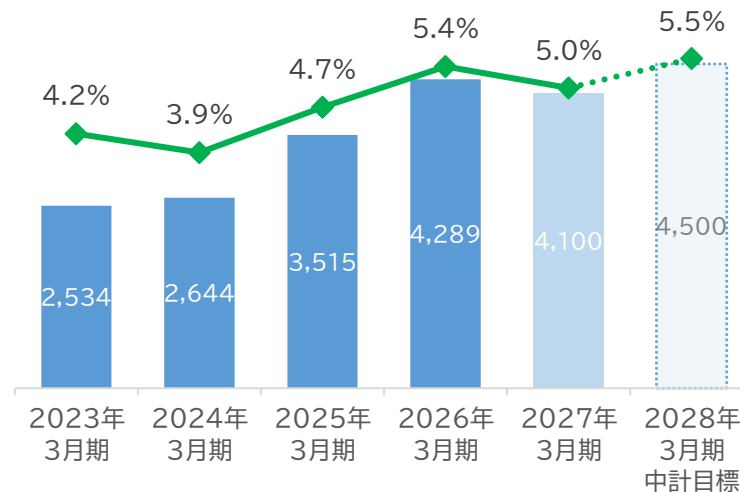
保有資産の一部売却

- 政策保有株式縮減
投資有価証券売却による特別利益: 2,416百万円
- 固定資産売却(保有不動産の売却など)
固定資産売却による特別利益 : 1,715百万円

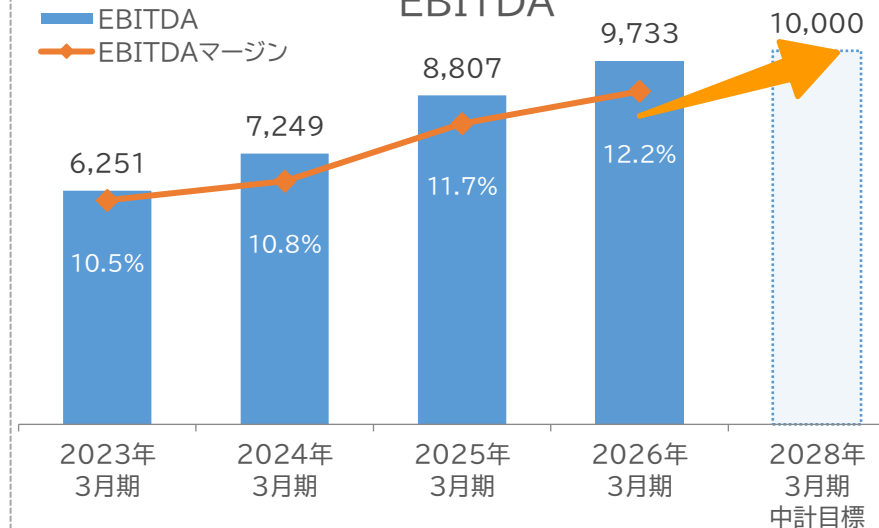
営業収益



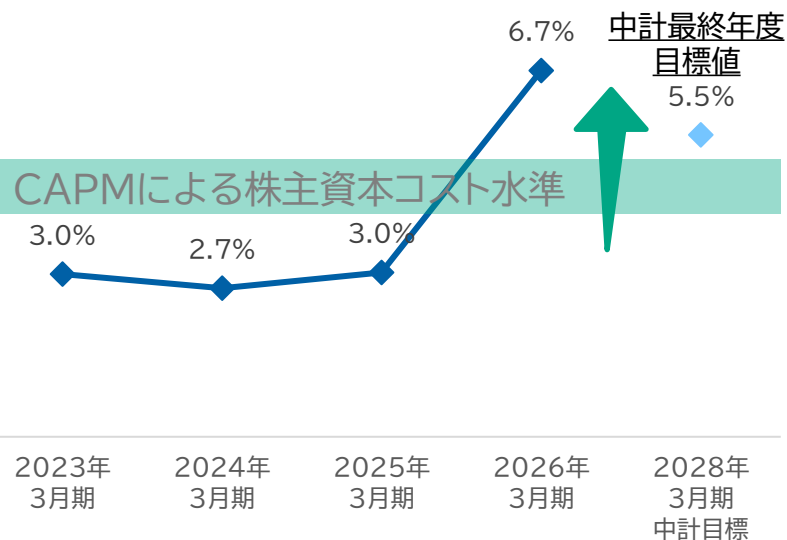
営業利益・営業利益率



EBITDA (単位:百万円)



ROE



営業利益
EBITDA

- 26年3月期は事業拡大により営業利益が増加。設備投資に伴う減価償却費の増加を利益成長が上回り、収益拡大に寄与。
- 27年3月期は羽田営業所をはじめとした新倉庫の稼働およびリニューアル施設の稼働開始など、成長投資による費用先行やコスト環境の変化もあるが、中期経営計画最終年度に向け引き続き収益力の強化を図り、さらなる利益成長を目指す。

ROE

- 26年3月期は、各事業が堅調に推移したことに加え、政策保有株式の売却等の一時的要因も寄与し増加。
- 27年3月期以降の中期経営計画期間においても、投資効果の最大化を図りつつ、政策保有株式の縮減および株主還元の強化に取り組み、資本コストを上回るROEの実現を目指す。

参考
資料

安田倉庫グループについて

会社名	安田倉庫株式会社 Yasuda Logistics Corporation
所在地	東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 29階
創立	1919年12月20日
代表者	代表取締役会長 藤井 信行 代表取締役社長 小川 一成
事業内容	倉庫業、運送事業、不動産業
資本金	3,602,100千円
市場	東証プライム(証券コード:9324)
従業員数	連結 2,581名 単体 488名 (2026年3月末) <small>※ 非連結子会社(後藤建築事務所㈱等)は含まず</small>
連結子会社	23社(国内16社 海外7社) <small>※ 非連結子会社(後藤建築事務所㈱等)は含まず</small>
決算月	3月



msb Tamachi 田町ステーションタワーN

安田倉庫グループ企業理念



安田倉庫コーポレートスローガン

Logistics, Progress, Borderless.

お客様と共にグローバルなロジスティクスカンパニーに成長すべく、当社グループが一体となり、その一人一人が従来の事業の枠にとらわれることなく常に発展・成長を続け、物流を進歩させていく決意を表しています。

1919年 興亜起業(株)として創立



安田善次郎



守屋此助

1942年 社名を
安田倉庫(株)に改称



函館常備倉

2005年 東証一部上場



2019年

創立100周年



大西運輸/オオニシ機工
のグループ入り決定



大西運輸



オオニシ機工

2020年
2021年 東京メディカル
ロジスティクスセンター
I / II 開設



南信貨物自動車Gのグループ入り



2022年 東証
プライム
移行



2023年

安田ロジファーマ
/YSO Logiの
グループ入り



安田ロジファーマ



YSO Logi

インド・シンガポール進出



2024年

オリエント・サービス
/後藤建築事務所の
グループ入り



オリエント・サービス

加須営業所開設



後藤建築
事務所

2025年

吉川営業所開設



国内物流



オフィス
サポート



メディカル
物流



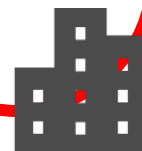
国際
物流



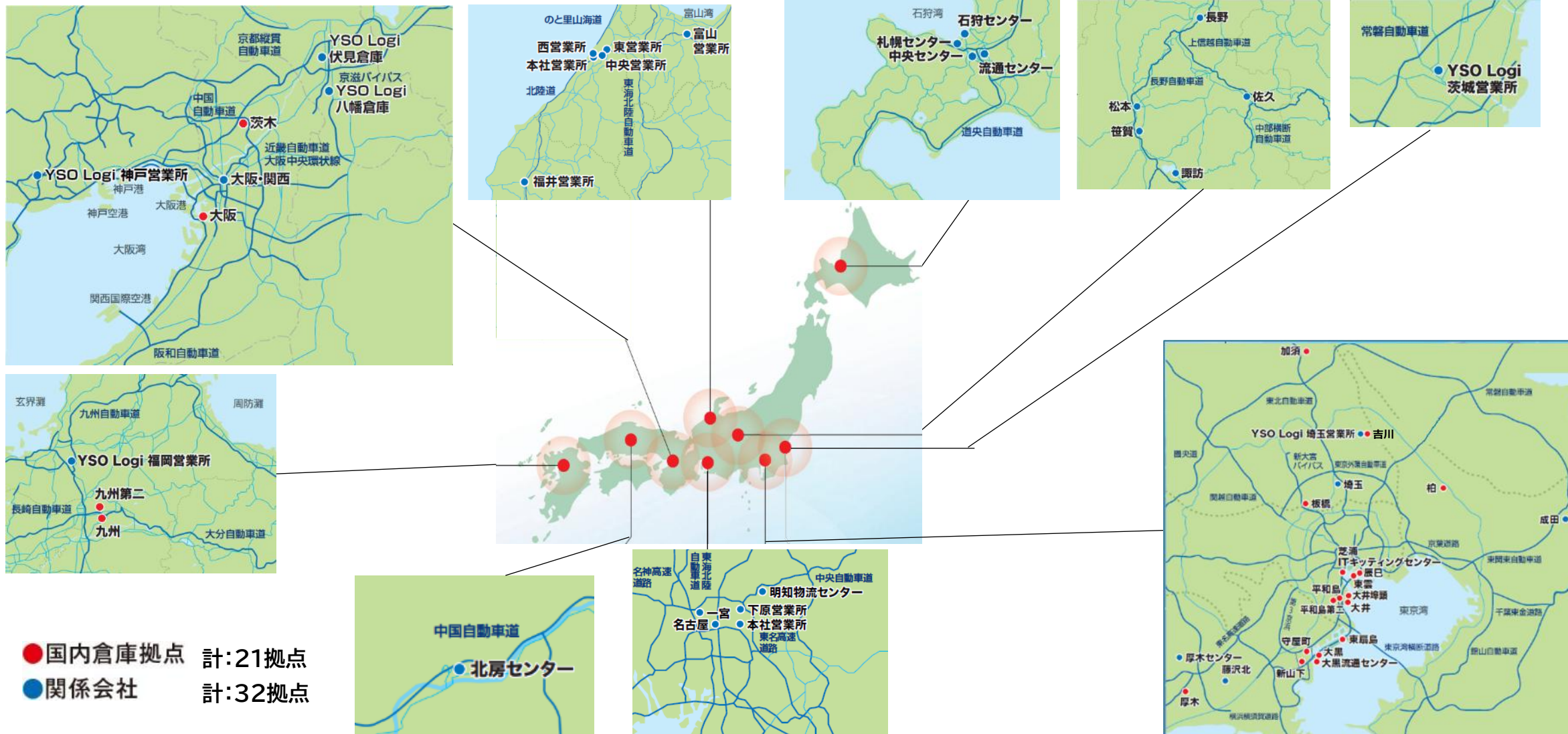
IT機器
物流

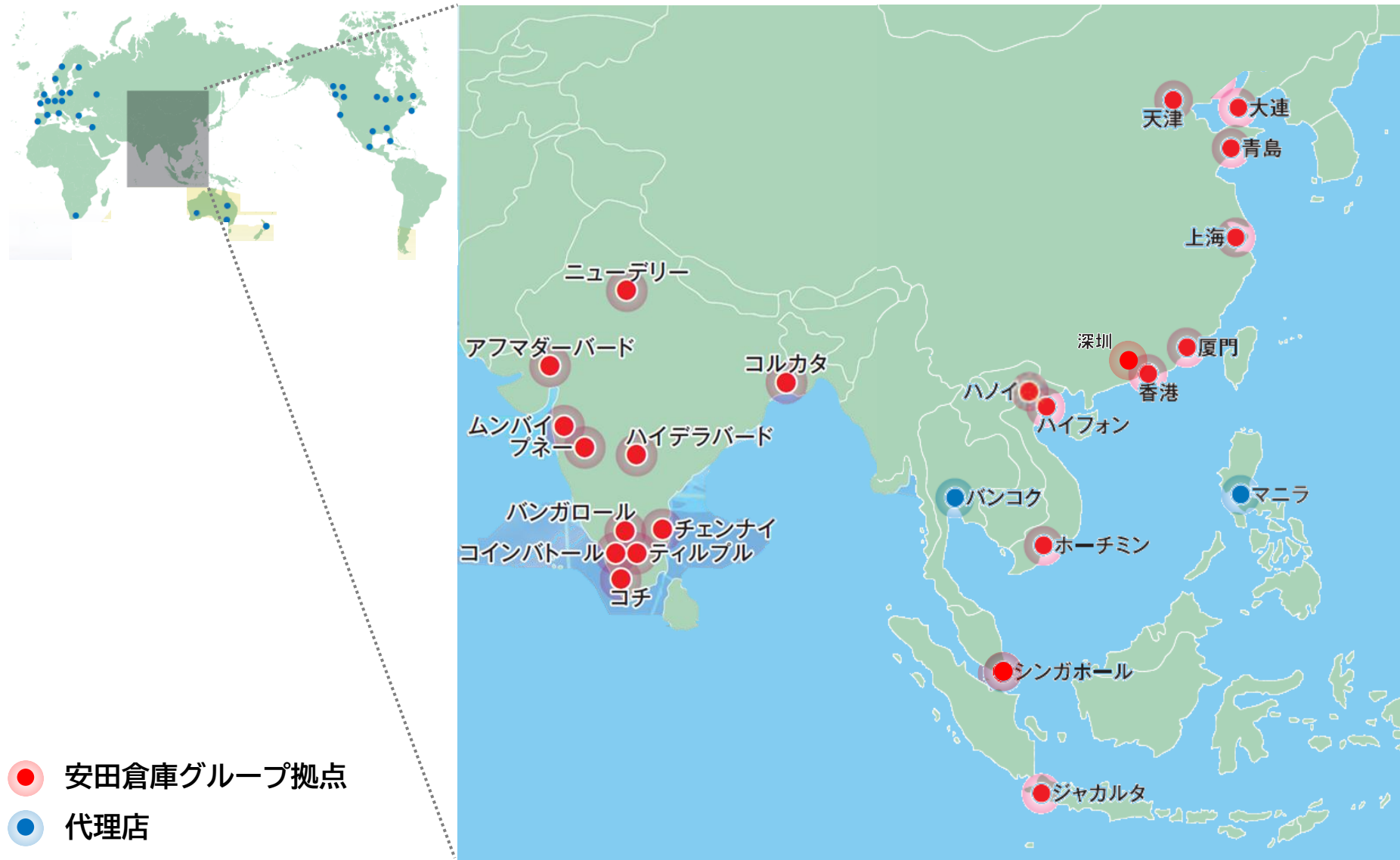


不動産



東西の主要拠点により持続的なサプライチェーンを提供





2026年3月末時点でのグループ会社一覧

安田倉庫

物流事業 関係会社

ヤスダワークス

北海安田倉庫

安田運輸

芙蓉エアカーゴ

日本ビジネス ロジスティクス

安田メディカルロジスティクス

ワイズ・プラスワン

大西運輸

オオニシ機工

南信貨物自動車

パワード・エル・コム

ルピナ車輛サービス

安田ロジファーマ

YSO Logi

オリエント・サービス

海外現法

安田中倉国際物流(上海)

安田物流(上海)

YASUDA LOGISTICS
(VIETNAM)

YASUDA LOGISTICS
INDONESIA

JAYA YASUDA
INDONESIA

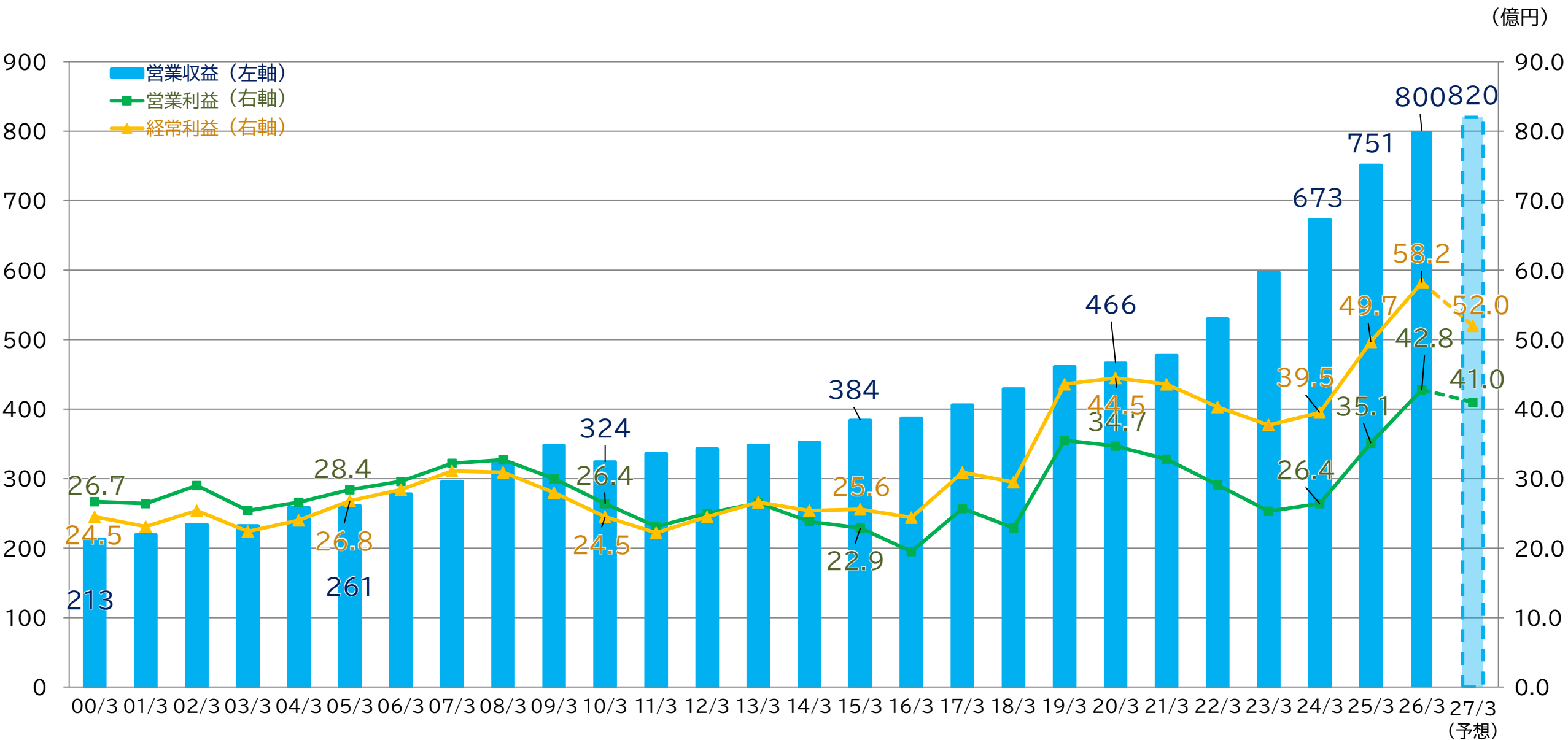
YASUDA LOGISTICS
SINGAPORE

YASUDA LOGISTICS
INDIA

不動産事業 関係会社

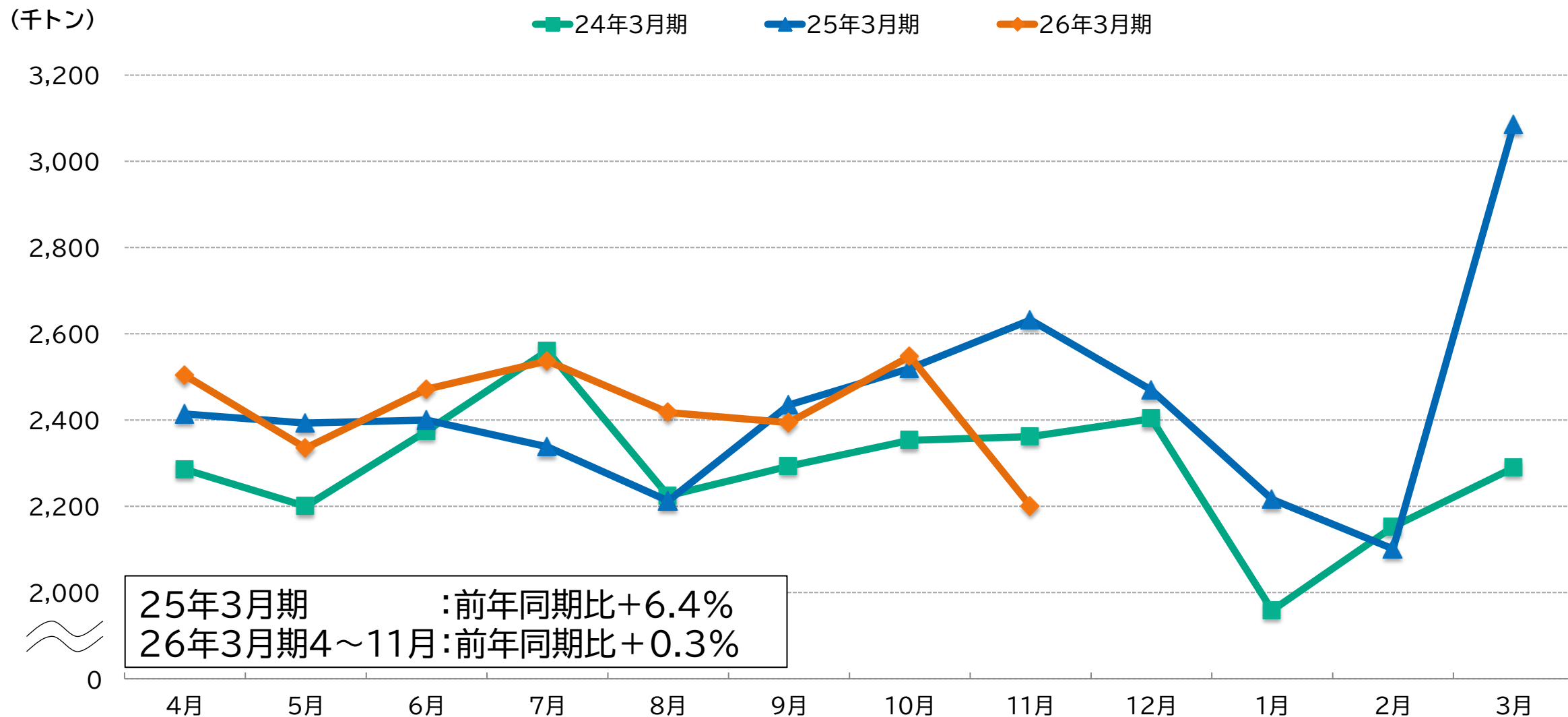
安田エステートサービス

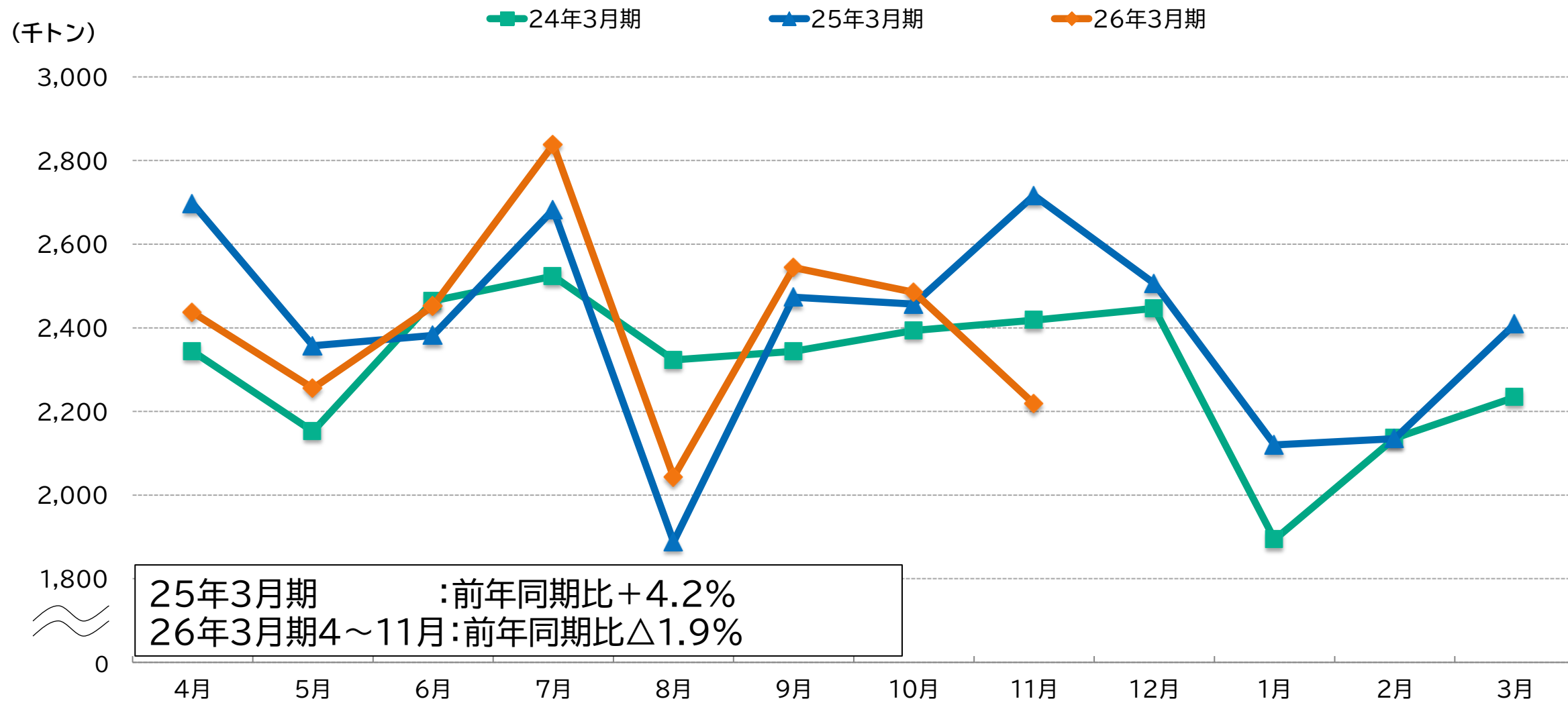
後藤建築事務所

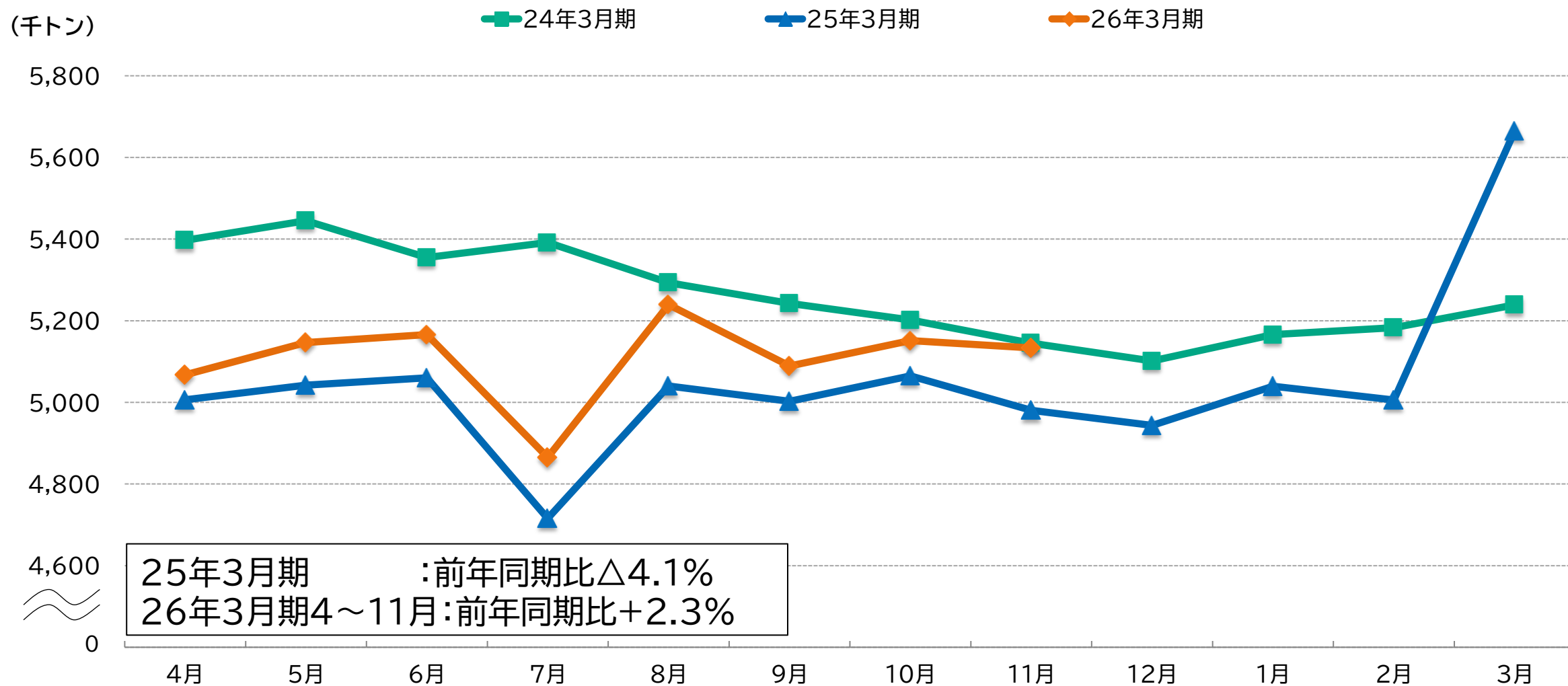


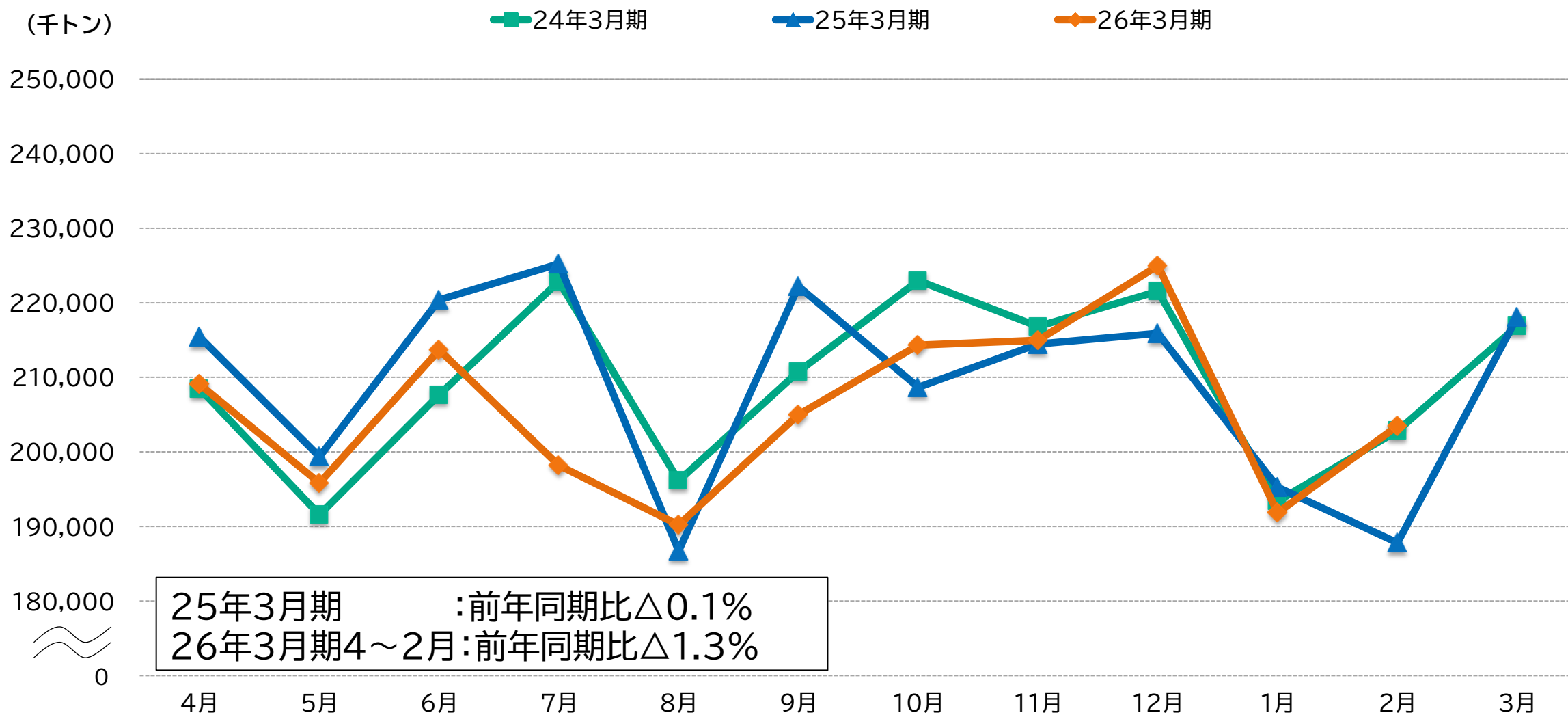
参考
資料

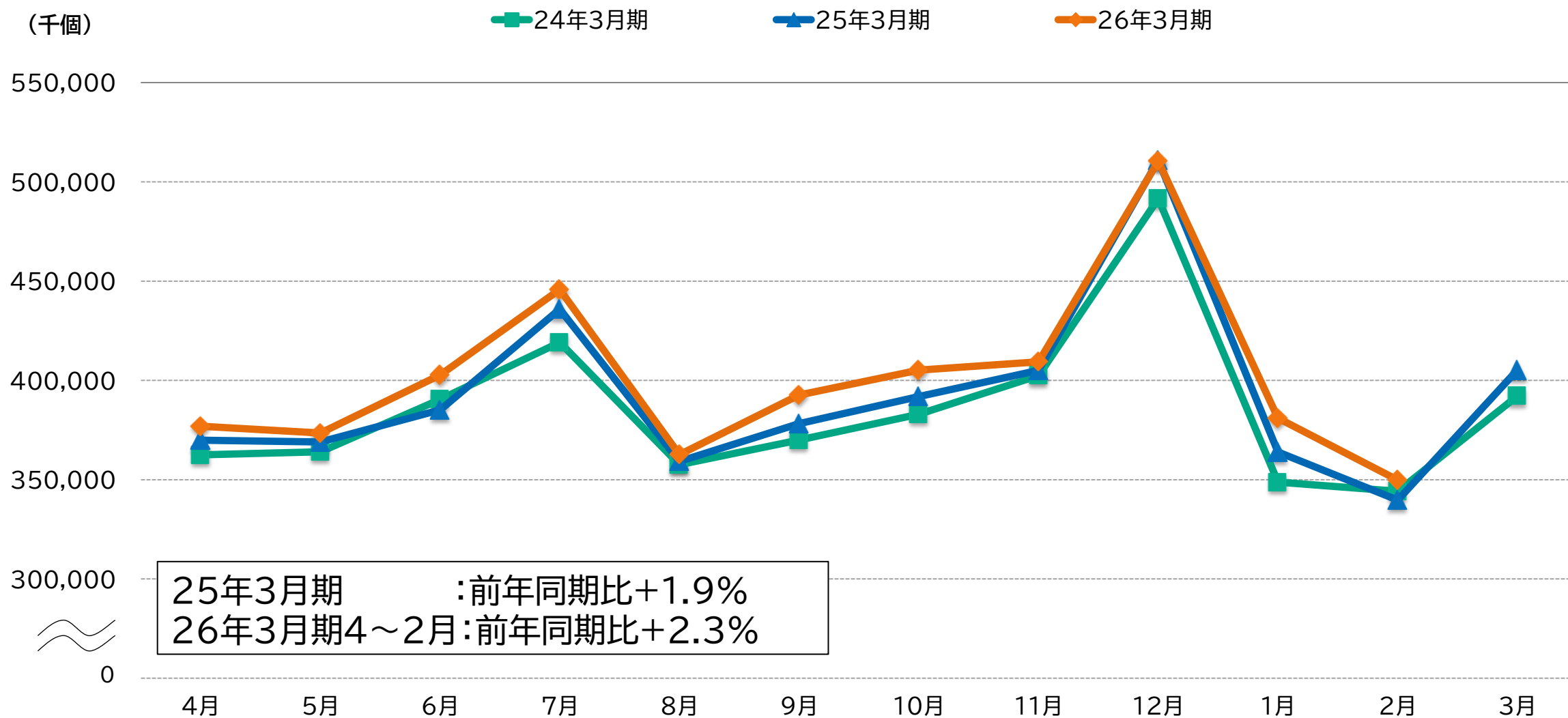
業界環境統計

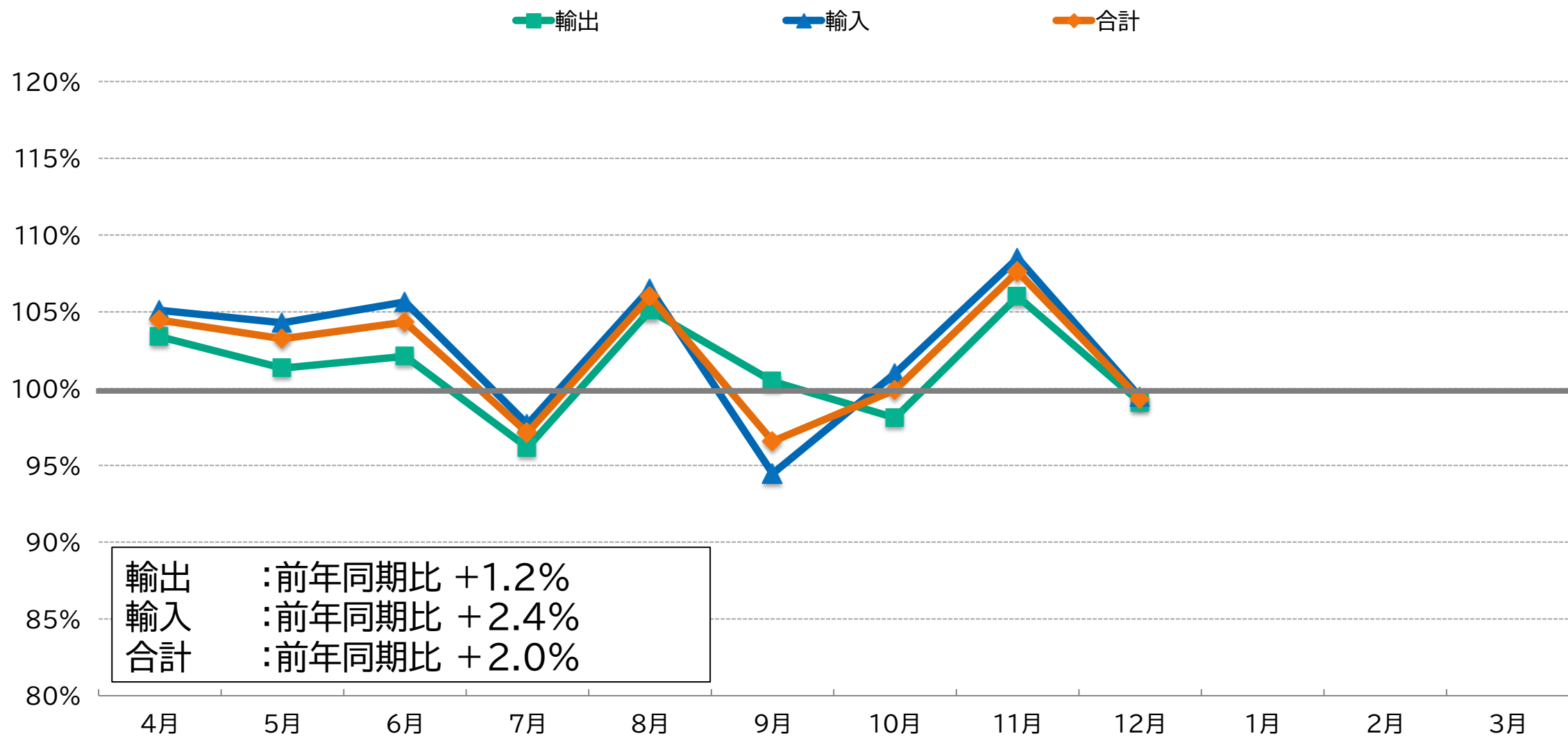




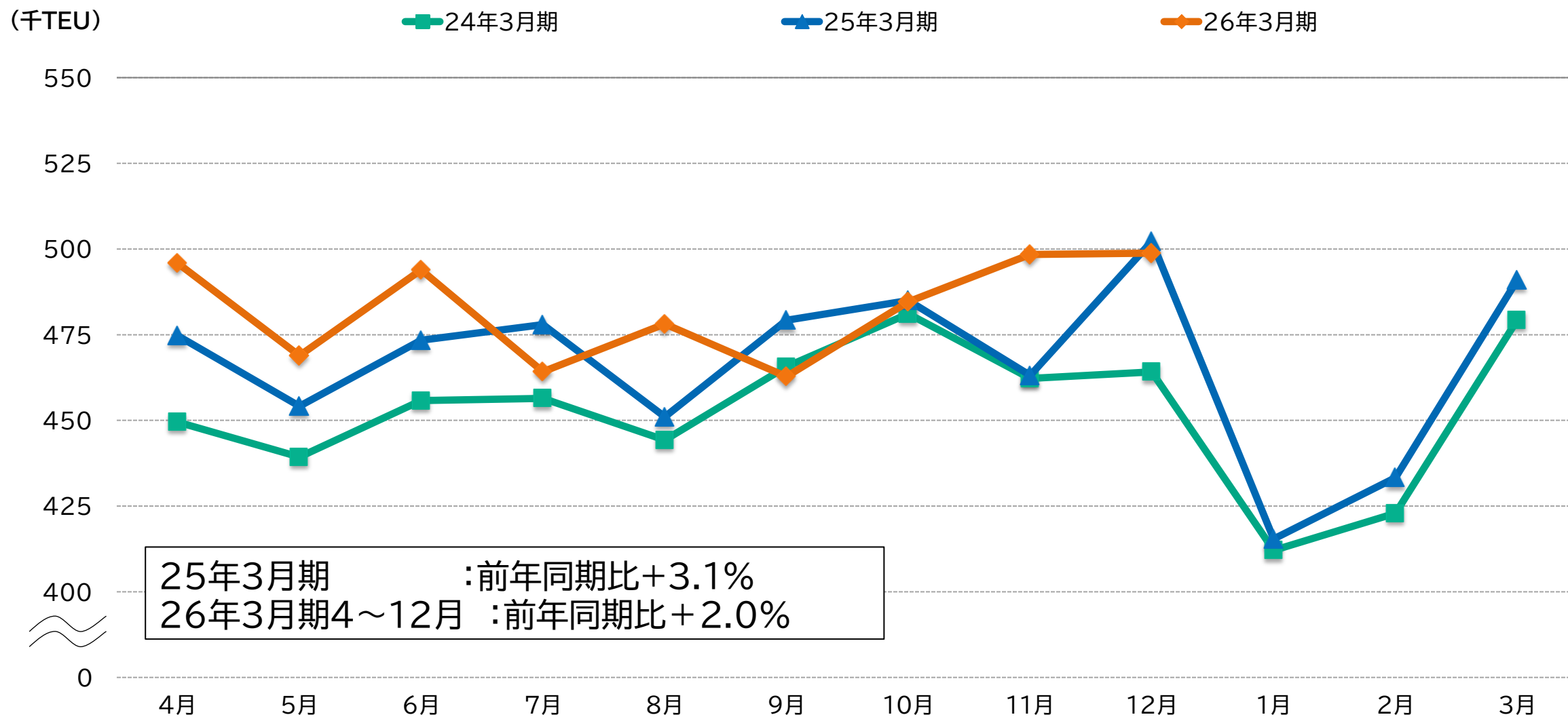


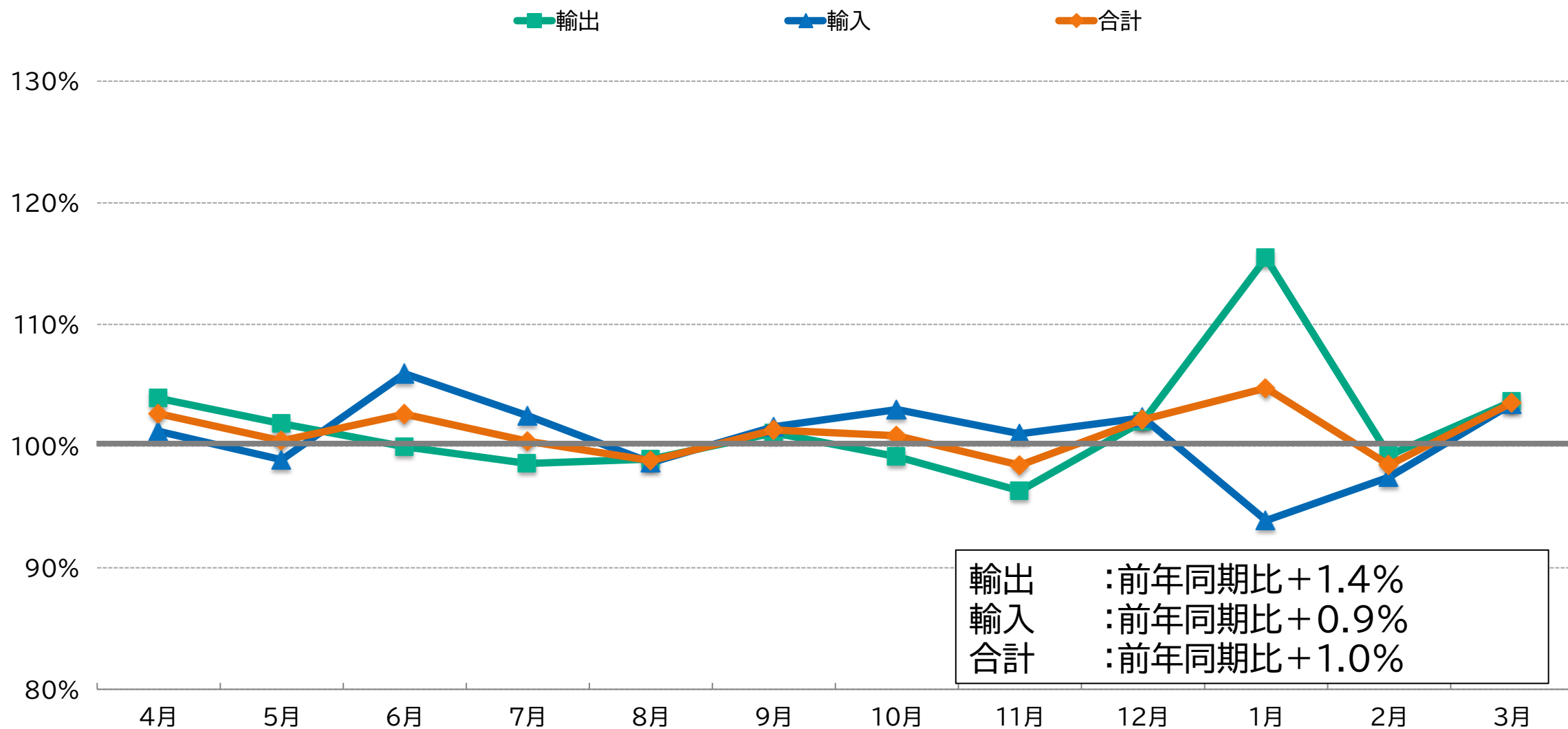


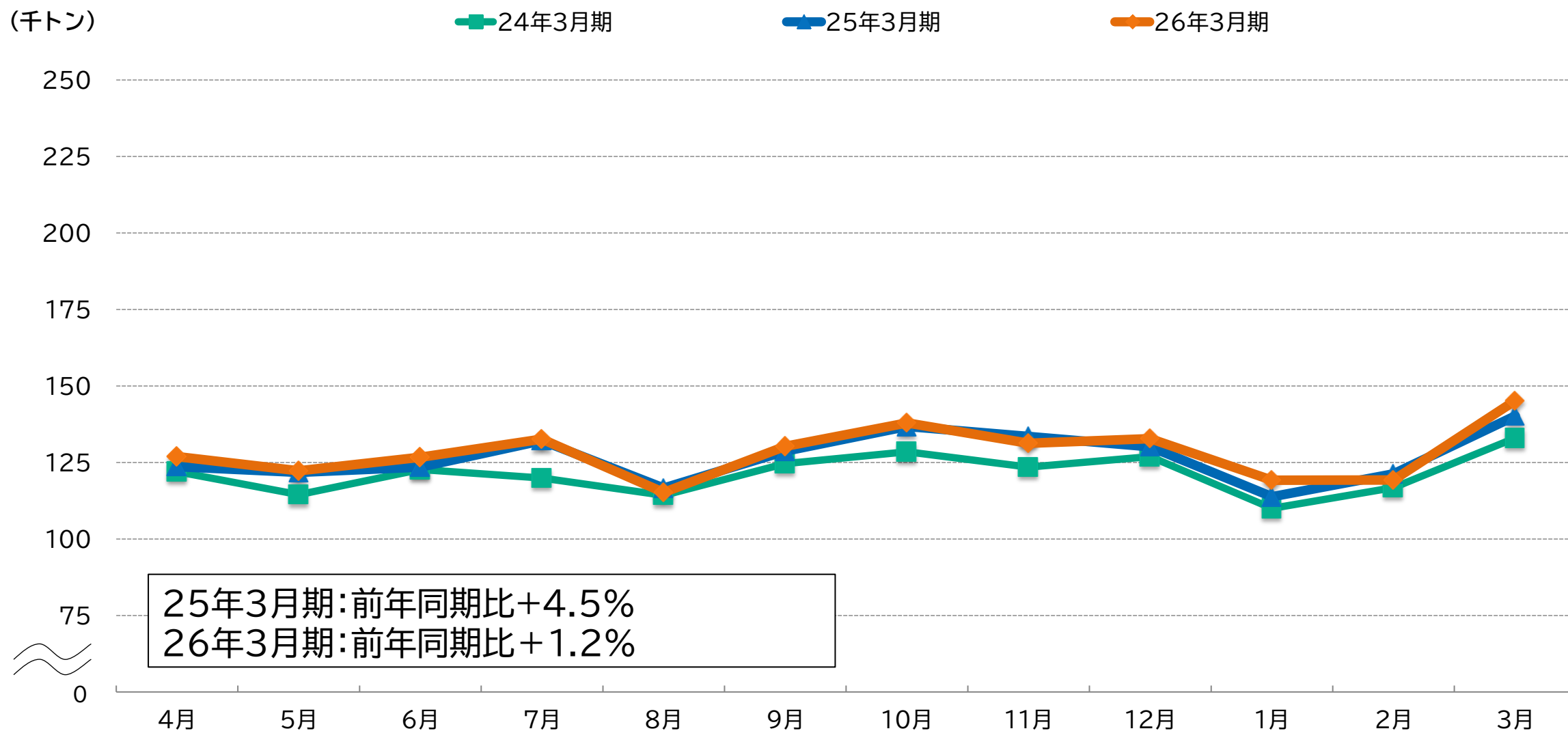


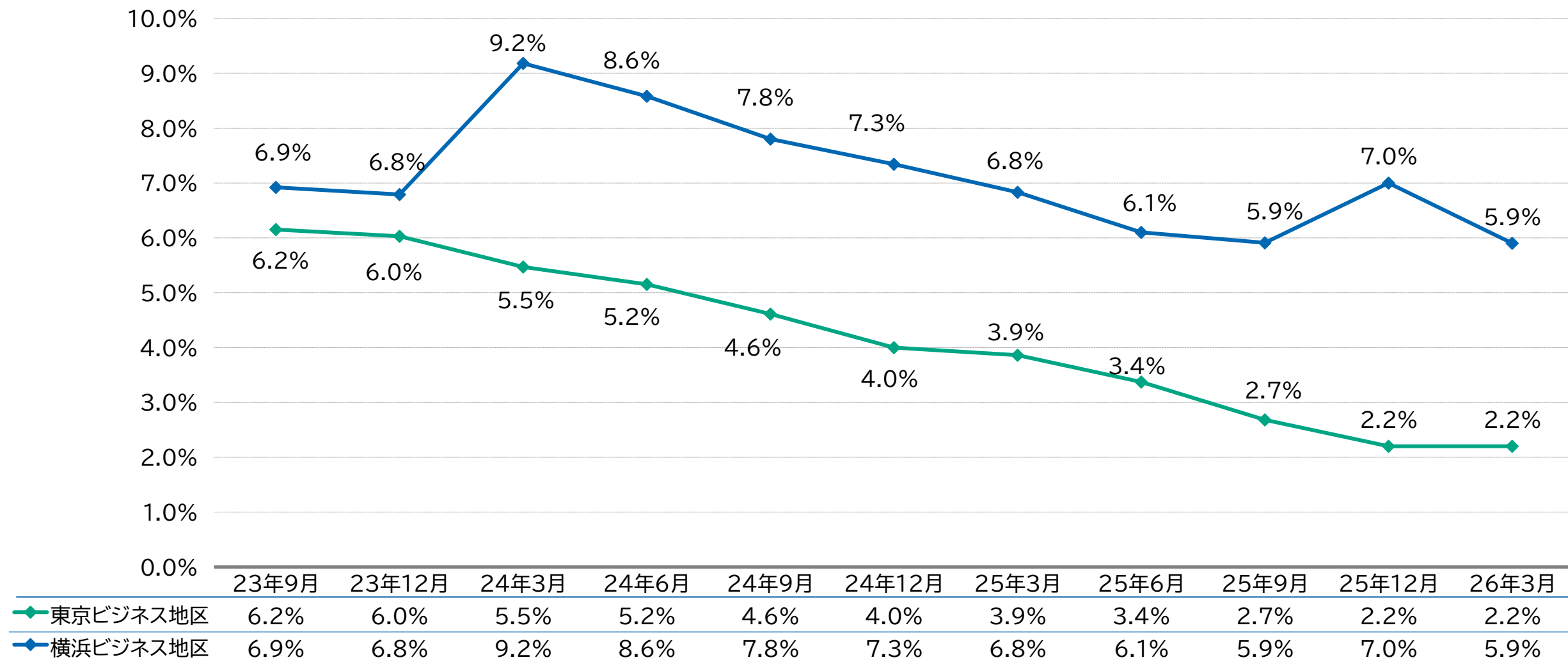


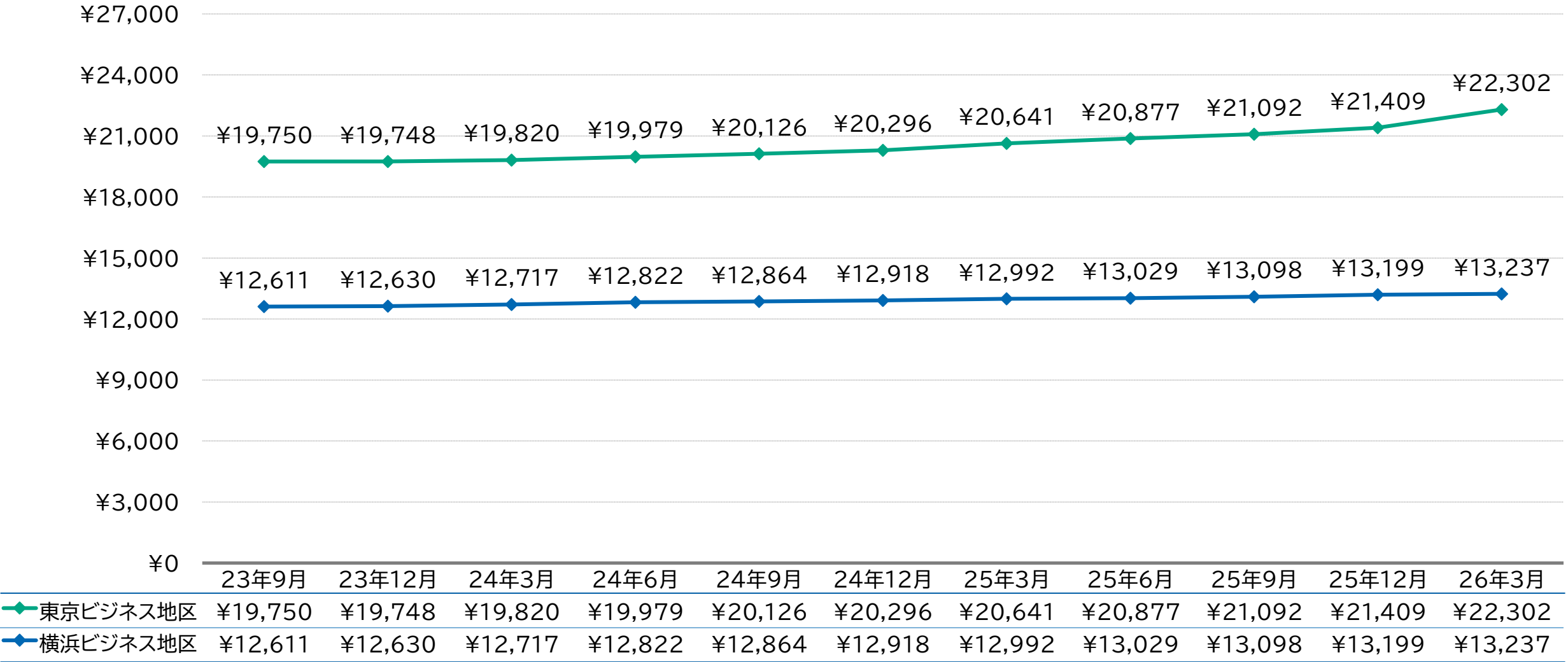
データ出典: 東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計













Logistics, Progress, Borderless.

当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当資料における今後の計画や業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、計画達成の確約や将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

実際の業績等は、経営環境の変化等、様々な要因により大きく異なる可能性があることにご留意下さい。

投資を行う際には、必ず弊社が作成する有価証券報告書等をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。